

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出願年月日
Date of Application: 2001年 6月27日

願番号
Application Number: 特願2001-195365

条約による外国への出願
する優先権の主張の基礎
する出願の国コードと出願
Country code and number
of our priority application,
used for filing abroad
under the Paris Convention, is

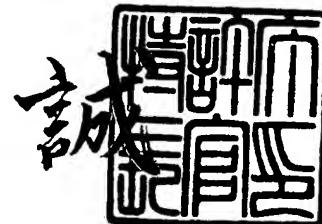
願人
Applicant(s): ユニ・チャーム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2006年 6月12日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中嶋誠



【書類名】 特許願
【整理番号】 YC1-015
【提出日】 平成13年 6月27日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A61F 13/15
【発明者】
【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
【氏名】 水谷 聰
【発明者】
【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
【氏名】 八巻 孝一
【発明者】
【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
【氏名】 野田 祐樹
【特許出願人】
【識別番号】 000115108
【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社
【代理人】
【識別番号】 100106002
【弁理士】
【氏名又は名称】 正林 真之
【選任した代理人】
【識別番号】 100115303
【弁理士】
【氏名又は名称】 岩永 和久

【選任した代理人】

【識別番号】 100116872

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤田 和子

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 058975

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 図面 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 陰唇間パッド

【特許請求の範囲】

【請求項1】 身体側に面する透水性の表面側シートと衣服側に面する透水性又は不透水性の裏面側シートとが体液を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、女性陰唇間に無理なく挟み込むことが可能な大きさの陰唇間パッドであって、

前記表面側シートの短手方向のほぼ中央部分が身体側に向けて頂点となるよう表面側シートの長手方向に沿って設けられている長凸状領域と、前記長凸状領域の裾野の延長として前記表面側シートの短手方向に形成されている延長領域と、から成ることを特徴とする陰唇間パッド。

【請求項2】 前記長凸状領域は、少なくとも前記表面側シート及び前記吸収体が折り曲げ形成されている屈曲部から成ることを特徴とする請求項1記載の陰唇間パッド。

【請求項3】 前記長凸状領域に対しては、前記屈曲部の広がりを規制する規制ミニシート片が、前記裏面側シートの反身体側に接合されていることを特徴とする請求項2記載の陰唇間パッド。

【請求項4】 前記長凸状領域に対しては、前記規制ミニシート片によって屈曲部の広がりが規制されている規制部分と、前記規制ミニシート片によって屈曲部の広がりが規制されていない非規制部分と、が存在することを特徴とする請求項3記載の陰唇間パッド。

【請求項5】 前記規制ミニシート片は、前記裏面側シートの反身体側に対して、当該裏面側シートの長手方向の各側部において一ヶ所以上の接合部分と、当該裏面側シートの短手方向において一ヶ所以上の非接合部分と、をもって接合され、前記一ヶ所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記規制ミニシート片と前記裏面側シートとの間において、指挿入用口を形成するものであることを特徴とする請求項3又は4記載の陰唇間パッド。

【請求項6】 前記長凸状領域の内部は長孔空間となっていることを特徴とする請求項1から5いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項7】前記長凸状領域の断面が、略三角形状となっていることを特徴とする請求項1から6いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項8】前記長凸状領域の断面積は、長手方向における一方端部から他方端部へ向かうにつれて徐々に小さくなっていることを特徴とする請求項1から7いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項9】前記長凸状領域の断面は、高さが5mmから30mm、底辺幅が1mmから20mmの略三角形状であることを特徴とする請求項1から8いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項10】前記長凸状領域は、その長手方向の長さ寸法が60mmから150mmであることを特徴とする請求項1から9いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項11】生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドであることを特徴とする請求項1から10いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項12】前記表面側シートと前記吸収体と前記裏面側シートから成る吸収層シートに対し、当該吸収層シートの短手方向の幅より短い幅の前記規制ミニシート片を前記吸収層シートの短手方向の幅に合わせて取り付けて陰唇間パッドを形成することにより、前記吸収層シートの身体側にしわ寄せ部分を生じさせ、当該しわ寄せ部分を長凸状領域とすることを特徴とする請求項3から11いずれか記載の陰唇間パッドの製造方法。

【請求項13】請求項1から12いずれか記載の陰唇間パットが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【請求項14】請求項5から12いずれか記載の陰唇間パットが個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、前記陰唇間パッドが前記包装容器に直交する方向で内包されていることを特徴とする包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、陰唇間に密着して装着可能な陰唇間パッドに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、女性用生理用品としては、生理用ナプキン、タンポンが一般的に用いられている。ここで、生理用ナプキンについては、膣口付近への密着性の乏しさゆえに生じる隙間からの経血のモレを防ぐべく、多大なる努力が払われている。また、タンポンにおいても、その物品の属性に起因して、着用時の異物感や不快感、膣内への装着困難性を生じることから、これを除去するために多大な努力がなされている。

【0003】

このような状況下、ナプキンやタンポンの中間に位置する生理用品として、近年、陰唇間パッドなる生理用品が注目されるようになってきている。

【0004】

一方、生理用ナプキンと身体との密着性を高めたものとして、身体に接する面の中央付近に吸収体を集中的に設けて他の部分よりも盛り上がった部分を形成した生理用ナプキンが、実開平5-18523号公報において開示されている（図24参照）。かかる生理用ナプキンの構造によれば、盛り上がり部分が陰唇内に入り込むため、通常のナプキンよりは密着性が高いとも考えられる。

【0005】

しかし、このような実開平5-18523号公報に係るナプキンは、ナプキンの突出部を所定位置に持つて行くのが困難である。即ち、ナプキンというものは下着に固定し、当該下着に固定されたものを下着ごと身体に装着させるものであるが、上記のような改良型ナプキンでは、下着に固定されたナプキンについて、下着の装着動作によって陰唇間の所定の位置にナプキンの突出部を上手く誘導するようにする必要がある。この作業において、ナプキンの突出部の所定位置への誘導が間接的な作業となってしまうために、操作が困難であると共に装着位置の正確性に欠けることとなる。また、吸収体の厚さを増すことによって盛り上がり部を形成しているため、その厚みによっては着用者に強い異物感を覚えさせる原因ともなりかねない。

【0006】

これに対し、陰唇間パッドというものは、上記従来例の生理用ナプキンのよう

に盛り上がり部を設けるまでもなく、陰唇間に直接挟み込むという物品属性に由来して、上記従来例の生理用ナプキンと同様の密着性を確保できる。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、陰唇間パッドは、目視困難な陰唇間という場所に装着されるものであるために、装着が容易ではない。しかも、適切な位置に装着されなかった場合には、ナプキンよりもサイズが小さいために、経血のモレによる被害が甚大となる。

【0008】

また、陰唇間パッドは、陰唇間に直接装着するものであり、身体との密着性が利用者の陰唇形状に影響されやすいものであるために、個人差に応じて適切な装着ができるようなものである必要がある。

【0009】

本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、利用者の身体との密着性が高く、かつ、利用者の陰唇形状の個人差に関係なく使用することができる陰唇間パッドであって、確実かつ衛生的な装着を行うことができる構造の陰唇間パッドを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】

上記のような課題を解決するために、本発明に係る陰唇間パッドは、表面側シートと吸収体とを折り曲げて身体に接する面に長凸状領域を設けることにより、着用者の陰唇の長さにかかわらず装着できる陰唇間パッドとしたこと、更に言えば、その長凸状領域が着用者の陰唇及びその周辺部分の様々な形状に倣って柔軟に変形し、着用者の内股に密着的に装着されるものとしたことを特徴とする。

【0011】

また、かかる陰唇間パッドの機能が有効に発揮されるように、感覚が鋭い指先の腹の部分を上手く使って装着を行うことが可能な構造を備えた陰唇間パッド、具体的には、パッドの反身体側に指先をスムーズに差し込むことができるポケットを形成し、そこに指を差し込んだ状態で陰唇間への装着をスムーズに行うこと

ができる陰唇間パッドとしたことをも特徴とする。

【0012】

より具体的には、本発明は、以下のようなものを提供する。

【0013】

(1) 身体側に面する透水性の表面側シートと衣服側に面する透水性又は不透水性の裏面側シートとが体液を吸収する吸収体を内包させた形態で接合されて成るものであり、女性陰唇間に無理なく挟み込むことが可能な大きさの陰唇間パッドであって、前記表面側シートの短手方向のほぼ中央部分が身体側に向けて頂点となるように前記表面側シートの長手方向に沿って設けられている長凸状領域と、前記長凸状領域の裾野の延長として前記表面側シートの短手方向に形成されている延長領域と、から成ることを特徴とする陰唇間パッド。

【0014】

本発明によれば、表面側シートの長手方向においては、身体側面に延在する長凸状領域が身体側に向かって設けられているため、陰唇間パッドを装着したときに当該長凸状領域が陰唇間に嵌装することができる。即ち、本発明に係る陰唇間パッドは、従来のように単に陰唇間に挟み込まれるだけではなく、その身体側面に設けられた長凸状領域が陰唇内の奥深くにある小陰唇の内部の膣口付近にまで入り込むため、陰唇間パッドと陰唇との間に生じる隙間の発生を著しく低減させることができる。

【0015】

また、表面側シートの短手方向においては、延長領域が前記長凸状領域に連なって設けられているため、陰唇間パッドを装着したときには、かかる延長領域が外陰部を覆った状態となる。このため、短手方向に経血が高速かつ多量に流出してきたとしても、外陰部に対して垂直方向に位置付けられる前記延長領域が、これを遮る壁となるのである。しかも、長凸状領域と延長領域との境目は、陰唇間パッド装着時には外陰部を挟んだ折り返し部分となるため、この折り返し部分が溝のような役目を果たし、前記延長領域自身が経血を吸収し切れなかった場合でも、経血を外部に漏れ出させることなく、これを受け止めることができる。

【0016】

このように、本発明によれば、表面側シートの長手方向のみならず、短手方向に対しても経血のモレ防止が図られているのである。なお、前記延長領域は、上述のように外陰部を覆うように変形して短手方向への経血の流出を遮る壁となるものであるため、その形状は略平坦状となっているのが好ましい。

【0017】

上述のことに加え、陰唇間パッドの身体面側に設けられた長凸状領域が陰唇間に密着的に嵌装されるということは、着用者の身体に当該陰唇間パッドがしっかりと固定されるということに他ならない。このため、本発明に係る陰唇間パッドに設けられた長凸状領域は、モレ防止機能のみならず、脱落防止機能をも有していることとなる。

【0018】

この脱落防止機能をより一層高めるために、本発明に係る陰唇間パッドの表面側シートに粘着剤を予め塗布して、着用者の身体への密着性を更に強めることも可能である。

【0019】

(2) 前記長凸状領域は、少なくとも前記表面側シート及び前記吸収体が折り曲げ形成されている屈曲部から成ることを特徴とする(1)記載の陰唇間パッド。

【0020】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、身体側面に設けられた着用者の陰唇間に嵌装される長凸状領域が、表面側シート及び吸収体を単に折り曲げることにより形成されているため、外圧力により容易に変形されることが可能となっている。具体的には、前記長凸状領域は、着用者の陰唇と接触する部分においてはほぼそのままの形状を維持するものの、それ以外の部分においては、押し潰されて平坦状に広がる。このため、着用者は、陰唇間パッドを陰唇間に装着して、ただ下着等を履くだけで、前記長凸状領域が、着用者の陰唇と下着等との外圧力によって自然に着用者の陰唇形状に合った突起部に変形されるのである。

【0021】

これに対し、陰唇間パットの身体側面に単に既成の突出部を設けた場合には、

陰唇形状に個人差があることから、必ずしも当該突出部が全ての着用者にフィットするわけではない。例えば、利用者の陰唇寸法が当該突出部よりも長い形状である場合には、突出部が陰唇間の一部にしか入り込めないため、当該突出部が介在していない陰唇間部分が存在することとなる。しかも、一部には当該突出部が介在しているために、大陰唇が開いた状態となることから、当該突出部が介在していない陰唇が広がってしまい、却って大きな隙間を生じさせてしまう原因ともなりかねない。

【0022】

一方、既成の突出部が着用者の陰唇より短い場合には、前記突出部が陰唇間内に密着的に介在するわけではないため、当該突出部と陰唇との接触面積が狭くなってしまう。このため、当該突出部における経血吸収はあまり期待できない。

【0023】

この点、本発明に係る陰唇間パッドによれば、長凸状領域が着用者の陰唇形状に応じて容易に変形可能に形成されているため、陰唇間パッド着用時において着用者の身体と陰唇間パッドとの間に不要な隙間を生じさせるというようなこともなく、密接的に装着される。なお、長凸状領域を形成するにあたっては、表面側シート及び吸収体のみならず裏面側シートも合わせて折り曲げられる形態とすることも可能である。これにより、陰唇間パッド全体を折り曲げることとなるため、折り曲げられた表面側シート及び吸収体の見掛け上の長さ寸法に合わせて裏面側シートを接合するというような細かい作業が不要となり、本発明に係る陰唇間パッドの製造工程の簡素化を図ることが可能となる。また、長凸状領域の頂点部分を軸として容易に折り畳むことが可能となるため、個別包装容器に内包させやすいという効果もある。

【0024】

上述のように、長凸状領域が変形することにより陰唇間介在部分及びそれ以外の部分が形成されるため、両者が着用者の陰唇間から陰唇間付近の形状に沿ってなだらかに繋がるということになる。即ち、陰唇間介在部分及びそれ以外の部分が一連となっているため、単に身体側面の一部だけをいきなり突出させて既成の突出部を設けた場合と比較して、着用者の内股と陰唇間パッドとの間の隙間の発

生を低減することができる。

【0025】

以上のように、本発明によれば、単に陰唇間パッドを折り曲げるという簡易な構成によって機能性の高い陰唇間パッドを完成することができる。この点、生理用ナプキンは、その製品構造に由来してそもそも厚みがあるもの故に、本発明のように折り曲げた場合には、陰唇間に挟み込むには不適切な厚みを有することとなってしまい、著しく着用感を害することとなる。即ち、本発明は、陰唇間に挟み込むものであるために、ナプキンに比べて著しく薄いという陰唇間パッドの物品特性を利用して完成したものなのである。

【0026】

このような、本発明における陰唇間パッドに対しては、その素材を変形自在な柔軟性あるものとすることにより、より一層個々人の陰唇形状に適応可能な陰唇間パッドとすることができます。

【0027】

なお、本発明に係る陰唇間パッドを個別包装容器に内包する場合には、折り曲げ形成された長凸状領域を短手方向に向かって左右のいずれかに倒すことにより、包装容器内にコンパクトに収納することができる。

【0028】

(3) 前記長凸状領域に対しては、前記屈曲部の広がりを規制する規制ミニシート片が、前記裏面側シートの反身体側に接合されていることを特徴とする(2)記載の陰唇間パッド。

【0029】

上述の(2)記載の長凸状領域は、表面側シート及び吸収体を単に折り曲げただけで形成されているために、利用者が陰唇間に装着する前に屈曲部が広がって長凸状領域が平坦状に変形してしまい、装着時に陰唇間に好適に嵌装できない形状となってしまう場合も考えられる。この点、本発明によれば、不必要的長凸状領域の変形を防止するために、屈曲部の広がりを規制する規制ミニシート片が取り付けられている。これにより、利用者は、陰唇間パッドを装着するまで、特段の注意を必要とすることなく、好適な長凸状領域の形状を維持することができる

【0030】

(4) 前記長凸状領域に対しては、前記規制ミニシート片によって屈曲部の広がりが規制されている規制部分と、前記規制ミニシート片によって屈曲部の広がりが規制されていない非規制部分と、が存在することを特徴とする（3）記載の陰唇間パッド。

【0031】

本発明によれば、規制ミニシート片を取り付ける位置を変えることにより、長凸状領域の変形に対してメリハリを付けることができる。例えば、前方（陰核方向）にモレを生じやすい利用者に対しては、後方に規制ミニシート片を設けることにより前方が平坦状に変形する陰唇間パッドを提供することができ、後方（肛門方向）にモレを生じやすい利用者に対しては前方に規制ミニシート片を設けることにより後方が平坦状に変形する陰唇間パッドを提供することができる。

【0032】

このように、本発明によれば、規制ミニシート片の取り付け位置を変更するだけで、様々な態様のモレ防止機能を有する陰唇間パッドを提供することが可能となる。この結果、利用者は自己の経血のモレ具合に応じて最適なものを適宜選択することが可能となる。

【0033】

(5) 前記規制ミニシート片は、前記裏面側シートの反身体側に対して、当該裏面側シートの長手方向の各側部において一ヶ所以上の接合部分と、当該裏面側シートの短手方向において一ヶ所以上の非接合部分と、をもって接合され、前記一ヶ所以上の非接合部分の少なくとも一つが、前記規制ミニシート片と前記裏面側シートとの間において、指挿入用口を形成するものであることを特徴とする（3）又は（4）記載の陰唇間パッド。

【0034】

本発明の陰唇間パッドの反身体側面に取り付けられている規制ミニシート片は、裏面側シートの短手方向においては、規制ミニシート片の両袖部のうち少なくとも一方の袖部が、裏面側シートの面に対して接合されていない。これにより、

非接合状態にある規制ミニシート片の一方袖部と裏面側シートとの間に袖口が形成され、かかる袖口が指の挿入が可能な指挿入用口となる（図12参照）。

【0035】

また、裏面側シートの長手方向においては、規制ミニシート片は裏面側シートの左右側部においてのみ接合され、内側については接合（貼着）されていない。このため、規制ミニシート片は裏面側シートの一側部から他側部にまたがった状態で取り付けられることとなり、かかる一側部から他側部にまたがった部分において、指を挿入して保持できる空間（指挿入用空間）が形成される。

【0036】

ここで、裏面側シートの短手方向において、規制ミニシート片の両袖部が裏面側シートに対して非接合状態にある場合には、前記指挿入用空間は貫通孔（トンネル状態）となり、一方規制ミニシート片の一方袖部が接合されている場合には前記指挿入用空間は洞穴状態となることになる。

【0037】

そしてまた、規制ミニシート片が複数枚から成るときは、裏面側シートの長手方向において、左右側部における接合部はその枚数に応じて増加し、例えば規制ミニシート片が2枚であれば、それぞれ二箇所ずつ接合部が設けられることとなる（図11（B）参照）。

【0038】

なお、本発明において、裏面側シートの長手方向における「側部」には、陰唇間パッドの周縁部に該当する部分のみならず、規制ミニシート片の接合可能な周縁部近辺も含まれる。

【0039】

このように、本発明によれば、規制ミニシート片が指挿入用口及びそれに続く指挿入用空間を形成するように裏面側シートに取り付けられているので、かかる指挿入用口に指を挿入することにより、指先に陰唇間パッドを一時的に固定して保持することが可能となる。これにより、目視困難な陰唇間という場所への装着であっても、正確な装着ポイントを的確に把握しながら、陰唇間パッドの身体側面に設けられた長凸状領域を適切な位置に嵌装することが可能となる。

【0040】

ここで、例えば、屈曲部の近くに規制ミニシート片を位置付けるなどして指挿入用口を着用者の指幅の開口となるように形成することにより、扁平な形状である指先が、シート面に対して異方向となることなく、自然にシートの面に接するように挿入されるようになる。即ち、かかる場合には、従来例の尿失禁防止パッド（特表平6-506368号公報）のように、常態では指挿入用の穴が閉じられているために（図25参照）、まず、当該尿失禁防止パッドと直角をなすような方向に指を向けて挿入し（図26参照）、その後に指を回転することにより初めて陰唇間パッド側に指の腹を向けることができる、というように、二次的に裏面側シートの面方向に指幅の開口が形成されるのではなく、一次的にかかる指幅の開口が形成される。このため、指挿入用口に指を挿入するに際し、自然に指の腹をシートの面側に向けるように着用者の指挿入方向を特定づけることが可能となり、陰唇間パッドの迅速かつ正確な装着をより一層容易なものとすることができる。

【0041】

そしてまた、前記規制ミニシート片を、ポケットを形成するように前記裏面側シートに取り付けた場合には、指の先端部分が接する部分において裏面側シートと規制ミニシート片とが密着されているため、装着時に指先が経血に接触してしまうという事態を確実に回避することが可能となり、装着が衛生的なものとなる。

【0042】

更に、当該裏面側シート上の指の腹が接する箇所に、極微小の凸凹を備えるようにすることにより、指先の腹面と裏面側シートの反身体側面との接触面積を少なくして、指先と陰唇間パッドとの間において摩擦や張り付きといったような現象を生じにくくすることもできる。このようにした場合には、着用者の指先の状態、例えば湿潤環境に影響されて着用者が意図しない場所へ陰唇間パッドが装着されてしまうというような事態を防ぐことができ、また、装着後の指の引き抜きもスムーズに行うことができるので、装着後の装着ズレを防止することが可能となる。

【0043】

なお、本明細書において「指幅」とは、指の厚みではないことを意味し、具体的には爪の広がり方向の指の幅のことをいい、「指幅の開口」とは、指を挿入することができるように十分な大きさを有する開口をいう。

【0044】

(6) 前記長凸状領域の内部は長孔空間となっていることを特徴とする(1)から(5)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0045】

本発明によれば、長凸状領域の内部が空洞であるため、陰唇間パッド装着後に下着等を履いたときに、着用者の陰唇と下着等とによる外部圧力で当該長凸状領域が難なく押し潰されることが可能となる。このため、当該長凸状領域が着用者の陰唇形状に適合した形状に変形し、内股と陰唇間パッドとの隙間の発生をより一層低減させることができるとなるのである。

【0046】

(7) 前記長凸状領域の断面が、略三角形状となっていることを特徴とする(1)から(6)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0047】

上述のように、長凸状領域の内側の長孔空間を略三角形状とすることにより、陰唇間パッドの装着に際して前記長孔空間に指を挿入した場合には、その長孔空間が指にフィットしやすいものとなる。このため、長凸状領域に挿入した指に陰唇間パッドがしっかりと固持されるため、装着ポイントの探知がより一層行いやすくなる。

【0048】

また、長凸状領域を有する唇間パッドを装着した場合には、陰唇間に長凸状領域が嵌入されて通常は密着した状態にある左右の大陰唇及び小陰唇が少し開いた状態となるが、本発明のように、装着時に陰唇間の奥が頂点となるように長凸状領域の断面を略三角形状とした場合には、小陰唇内のいずれの部分にも表面側シートが接触することとなる。これにより、前記長凸状領域、即ち、経血吸収可能部分を、着用者の陰唇間内において隙間なく密着させることができることとなり

、上述のような装着容易性のみならず、経血のモレ防止機能もより一層高められることとなる。

【0049】

(8) 前記長凸状領域の断面積は、長手方向における一方端部から他方端部へ向かうにつれて徐々に小さくなっていることを特徴とする(1)から(7)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0050】

上述のように、長凸状領域の内側である長孔空間に指を挿入する場合において、先細りとなっている指の形状に適合するように、長孔空間の形状も先細り形状となっているのが好ましい。この点、本発明によれば、一方端部に向かって長凸状領域の断面積が小さくなっていることから、長孔空間が指によりしっかりとフィットし、陰唇間パッドを指先に固定・保持するのにより好ましいものとなる。

【0051】

(9) 前記長凸状領域の断面は、高さが5mmから30mm、より好ましくは10mmから20mmであり、底辺幅が1mmから20mm、より好ましくは2から10mmの範囲内にある略三角形状であることを特徴とする(1)から(8)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0052】

統計的に女性の陰唇の深さは17mm前後であることから、前記略三角形状の高さが30mmより高い場合には、略三角形状の裾の部分が陰唇間に介在することができない。このため、長凸状領域の存在が着用者の内股と本発明に係る陰唇間パッドの表面側シートとを隔ててしまい、表面側シートと内股との間に隙間を生じさせてしまう結果、経血がその隙間を伝って漏れ出してしまうおそれがある。一方、前記略三角形状の高さが5mmより低い場合には、その頂点が陰唇間内の奥に接することができず、膣口付近と長凸状領域の頂点との間に隙間が生じ、その隙間から経血が漏れ出してしまうおそれがあり、また、製品の脱落防止という機能も十分に果たし得ない。

【0053】

そしてまた、長凸状領域を各シートや吸収体を折り曲げて形成している場合に

おいて、前記略三角形状の底辺の長さが20mmより長い場合には、略三角形状の頂点が鈍角となりすぎ、かかる頂点が膣口付近に達することができない。このため、膣口付近には長凸状領域が存在しないこととなり、隙間が発生して、当該長凸状領域の断面が略三角形状である意義が薄れてしまう。一方、当該底辺が1mmより短い場合には、頂点が鋭角となり過ぎ、着用者に異質感を必要以上に与えてしまう。

【0054】

この点、本発明における長凸状領域は、着用者の陰唇間に嵌装するのに適切な大きさの略三角形状となるように形成されているため、長凸状領域の陰唇に対する密着性及び固定性が高く、経血のモレ防止機能と陰唇間パッドの脱落防止機能が効果的に発揮されることになる。

【0055】

(10) 前記長凸状領域は、その長手方向の長さ寸法が60mmから150mm、好ましくは80mmから130mm、より好ましくは100mmから120mmであることを特徴とする(1)から(9)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0056】

本発明に係る陰唇間パッドの長手方向の長さは少なくとも60mm以上となっている。このため、陰唇形状は個々人によって異なるものの、どのような長さの陰唇を有する着用者であっても適用可能である。即ち、平均的な女性の外陰部の長さよりも長めに設計されているため、陰唇の長さが比較的長い利用者に対しても十分に対応でき、また、陰唇の長さが比較的短い着用者であっても、長凸状領域が陰唇に嵌装されない部分が押しつぶされて平坦状となるため、その長さが着用に際して不具合を生じさせることはない。しかし、陰唇長さに比して、陰唇間パッドの長手方向の長さがあまりにも長すぎる場合には、着用感を阻害してしまうことから、本発明においては長手方向の長さ寸法が150mmを超えないこととされているのである。

【0057】

(11) 生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用用陰唇間パッドであることを特徴とする(1)から(10)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0058】

生理用ナプキン利用者の中には、経血の量が多いときは何枚か重ねて使用するという者もいるが、ゴワゴワする等、着用感が悪く、アウターにも響いてしまうという問題があった。また、重ね使用が不要な部分、即ち、膣口付近以外にまでナプキンが重ねられてしまうため、かぶれやムレの原因ともなっていた。しかし、本発明によれば、陰唇周辺だけに生理用品が重ねられることとなるため、着用感やアウターにさほど影響を及ぼさず、しかも尻付近等におけるムレやかぶれを低減させることが可能となる。

【0059】

そしてまた、交換時においては、ナプキンを交換しないままにして、本発明に係る陰唇間パッドのみを交換することが可能となり、着用者は人目につきやすい大きさのナプキンを持ち歩かずに済む、という効果もある。

【0060】

(12) 前記表面側シートと前記吸収体と前記裏面側シートから成る吸収層シートに対し、当該吸収層シートの短手方向の幅より短い幅の前記規制ミニシート片を前記吸収層シートの短手方向の幅に合わせて取り付けて陰唇間パッドを形成することにより、前記吸収層シートの身体側にしわ寄せ部分を生じさせ、当該しわ寄せ部分を長凸状領域とすることを特徴とする(3)から(11)いずれか記載の陰唇間パッドの製造方法。

【0061】

本発明によれば、薄型であるという陰唇間パッドの物品性を利用して、単にシート及び吸収体を折り曲げるという簡単な方法により、着用者の内股への密着性に富み、モレ防止機能及び脱落防止機能が高められた陰唇間パッドを製造することができる。

【0062】

そして、このような簡単な構成であるがゆえに、製造工程を殊更複雑なものとする必要がなく、通常の陰唇間パッドを製造する場合と比較して製造コストにそれほど影響を及ぼさずに、機能性の高い陰唇間パッドを製造することができるのである。

【0063】

本発明における規制ミニシート片は、吸収層シートの短手方向の幅よりも短い幅となるように形成されているため、かかる短い幅に対応するように吸収層シートの左右側部を接合させることにより吸収層シートにしわ寄せ部分を生じさせることができる。

【0064】

また、規制ミニシート片に伸縮性素材を使用することにより、当該伸縮性の規制ミニシート片を吸収層シートの短手方向の幅に合わせて引き伸ばした状態で取り付け、取り付け後に規制ミニシート片が自然に縮んでしわ寄せを生じさせるように行なうことも可能である。これにより、規制ミニシート片を取り付けるために吸収層シートを規制ミニシート片の幅に合わせて予め折り曲げておく、というような作業が不要となり、製造工程の簡素化を図ることが可能となる。

【0065】

(13) (1)から(12)いずれか記載の陰唇間パットが個別包装用の包装容器に内包されている包装体。

【0066】

本発明によれば、陰唇間パッドが個別包装されているため、一つずつ持ち運んで使用することができる。このため、複数の陰唇間パッドが同じ包装容器内に内包されている場合に比べて、清潔かつ便利な取り扱いが可能となる。

【0067】

(14) (5)から(12)いずれか記載の陰唇間パットが個別包装用の包装容器に内包されている包装体であって、前記陰唇間パッドが前記包装容器に直交する方向で内包されていることを特徴とする包装体。

【0068】

本発明によれば、陰唇間パッドが包装容器との間で異方性を持って内包されているため、包装容器開封時に規制ミニシート片によって形成された指挿入用口が着用者に向かって開くように包装体が形成されることとなる。このため、開封方向と指先挿入方向とを着用者にとって同一方向とすることができます、着用者の指の挿入を容易なものとすることができます。

【0069】**【発明の実施の形態】**

次に、本実施形態の陰唇間パッドについて図を参照しつつ説明する。

【0070】

図1は、本実施形態の陰唇間パッドの身体側を示す概略斜視図である。図2は本実施形態の陰唇間パッドの反身体側を示す概略斜視図である。図3は本実施形態の陰唇間パッドを示す図1の断面図である。

【0071】**【基本構成】**

図1に示すように、本実施例に係る陰唇間パッド1は、液透過性素材から成る表面側シート11及び液不透過性素材から成る裏面側シート12、吸収体13から成る吸収層シート2と、液不透過性素材から成る規制ミニシート片14と、から成る。

【0072】

吸収層シート2の身体側面には、吸収層シート2を折り曲げることにより生じたしわ寄せ部分から成る長凸状領域3が、吸収層シート2の短手方向のほぼ中央部分において長手方向に設けられている。そしてこの長凸状領域3の裾野に、延長領域4が設けられている。一方、吸収層シート2の反身体側面には、図2に示すように、規制ミニシート片14が、折り曲げ形成された長凸状領域3の広がりを一部規制するように取り付けられている。

【0073】

前記吸収層シート2は、図3（A）、（B）に示すように、吸収体13を閉じ込めるようにして表面側シート11と裏面側シート12とが周縁部15において接合されることにより、一体的に形成されている。

【0074】

好適な実施形態において、表面側シート11と裏面側シート12とは、それらの周縁部15において接合させる。そしてその場合において、吸収体13は、その接合をする周縁部15において挟み込まれないようにするのが好ましい。このようにするために、例えば表面側シート11と裏面側シート12とのみを接合し

てから、吸収体13をその周縁部15の接合部に袋状に囲まれたところに閉じ込めるようとする。これに関し、周縁部15に吸収体13が挟み込まれて接合された場合には当該周縁部15が硬くなってしまうこととなるが、上記のようによりそれが回避され、着用感をより好適なものとすることができる。なお、吸収体13の寸法は、陰唇間パット1と同等であってもよく、前記周縁部15に吸収体が挟み込まれないようにするために、陰唇間パットの外輪郭から2~10mmの範囲の間隔が設けられるように予め縮小した寸法としてもよい。

【0075】

表面側シート11と裏面側シート12との接合は、ヒートエンボス及び／又はホットメルト型接着剤によりなされている。また、吸収体13は、表面側シート11及び裏面側シート12に対する層間分離を防止するために、各シート11、12に対して貼着された状態となっている。

【0076】

なお、表面側シート11と裏面側シート12とは、周縁部15を除く内縁部において貼着状態とすることにより、上記層間分離を防止することも可能である。また、湿潤時には層間分離が生じやすいが、これを防止するためには、ヒートエンボス型接着がより好ましい。これに関し、ヒートエンボス型接着剤は、ドット状・スクリーンパターン状の模様で、制限なく使用することが可能であり、エンボス面積率は3~20%の範囲で接合することにより、液透過を妨げることなく湿潤強度を保つことが可能である。

【0077】

[規制ミニシート片]

本実施例において規制ミニシート片14は、図2に示すように、裏面側シート12との間に指を挿入することができる中空部5を形成するように取り付けられている。そして、指挿入用口19を形成するように規制ミニシート片14の一方端部14aは裏面側シート12に対して非接合状態である。また、規制ミニシート片14の裏面側シート12に対する取り付け位置は、着用時に後方（肛門方向）となる後方端部12b付近に設けられている。これにより、前方（陰核方向）となる前方端部12a付近や真中に取り付け位置が設けられた場合と比較して、

指挿入用口19から中空部5に挿入された指の指紋側の面が裏面側シート12と接触する面積が大きくなり、陰唇間パッド1と指先との一体感を増加させることができ可能となっている。

【0078】

そしてまた、図2から明らかなように、裏面側シート12の後方端部12bにおいて規制ミニシート片14は不存在である。このため、図3（A）に示すように、図1のX-X観において規制ミニシート片14は存在しているが、図1のY-Y観においては存在していない。

【0079】

ここで、仮に、規制ミニシート片14の端部14bを裏面側シート12の端部12bに接合して後述の図12のようにポケット状の指挿入用空間を形成するようにした場合には、図1のY-Y観の部分においても断面図が図3（B）のようになることとなる。

【0080】

また、規制ミニシート片14の長手方向における長さ寸法については、本実施例のように裏面側シート12よりも短くしてもよいが、裏面側シート12とほぼ同一の長さとすることにより、裏面側シート12と規制ミニシート片14との接合時の位置合わせを容易化させることも可能である。

【0081】

なお、本明細書において「ポケット状」というのは、すっぽりとスムーズに指が入れられる袋状様部材のことを意味し、好適には、その断面形状は、扁平状もしくはそれに類似のものであるが、この他にも円錐状のもの等を採用することができる等、これに限定されることはない。

【0082】

[陰唇間パッドの大きさ]

本実施形態においては、陰唇間パッドの短手方向の長さは10mm～60mmが好ましく、より好ましくは30mm～50mmとすればよい。この場合において、60mmより長い場合には、陰唇間に嵌装されることのない延長領域4の外縁部が着用者の大腿部と陰唇間パッドの縁部とが接触し、着用者が動く度に両者

間で摩擦が生じてしまう。そして、かかる摩擦力が陰唇間パッドを保持している陰唇自体の力よりも上回ったときには、陰唇間から当該陰唇間パッドが脱落してしまうおそれがある。一方、10mmより短い場合には、外陰部を覆って、横方向へ流れ出す経血に対し吸収面をほぼ垂直に保つ面積が減少してしまうため、経血の流出を遮断することができなくなる。この点、上述の長さ寸法とした場合には、かかる問題はなく、着用時に好適な陰唇間パッドを提供することができる。

【0083】

本発明に係る陰唇間パッド1の長手方向の長さ寸法としては、60～150mmが好ましく、より好ましくは100～150mmとすればよい。150mmより長い場合には、陰唇間パッドの反身体側面と下着等とが接触面が大きすぎ、陰唇自体による陰唇間パッド保持力よりも強力な摩擦力が生じてしまい、陰唇間パッドを脱落させてしまう恐れがある。一方、60mmより短い場合には、身体側面に形成された長凸状領域3が全ての着用者の陰唇長さに対して十分な長さ寸法を有することができなくなってしまう。この点、上述のような長さ寸法とすることにより、着用時に好適で、かつモレ防止機能を十分発揮できる陰唇間パッドとすることができます。

【0084】

なお、本実施形態においては、長凸状領域3は、120mm程度となっている。このため、着用者の陰唇長さが製品設定よりも長くなる確率がほとんどなく、長手方向への体液の伝いモレを低減し得る。なお、陰唇に介在されない部分の長凸状領域3については、後述のように平坦状に変形するため、着用時に不都合が生じることはない。

【0085】

本発明に係る陰唇間パッドの厚みとしては、0.5～20mmであることが好ましく、より好ましくは2～10mmとすればよい。陰唇間パッドは敏感な陰唇間に装着されるため、厚みが20mm以上の場合には、着用時に着用者が異物感を感じこととなってしまう。一方、0.5mm以下の場合には、内包されている吸収体の容量が経血の吸収に対して不十分となりやすく、経血が陰唇間パッドから染み出してしまうおそれがある。この点、上述のような厚みとすることによ

り、かかる事態を回避することが可能となる。

【0086】

特に本実施形態によれば、吸収層シート2を折り曲げて長凸状領域3を形成しているため、吸収層シート2自体の厚みが着用感において重要な影響を及ぼすこととなる。この点、上述のような寸法内の厚みであれば、着用感を好適なものとすることができます。

【0087】

[材料]

表面側シート11に使用する材料は、織物及び不織布、有孔プラスチックシート等の液体を透過する構造であれば特に限定されるものではないが、熱可塑性フィルムをパーフォレーション又は熱エンボス又は機械加工等により開孔した開孔フィルムや、開孔フィルムと不織布との複合シート等のほか、以下に示すものを使用することができる。

【0088】

疎水性合成纖維としては、熱可塑性樹脂であるポリプロピレン（PP）、ポリエチレン（PE）、ポリエチレンテレフタレート（PET）等の単纖維、又はPEとPPのグラフト重合体で形成された纖維や、あるいは芯部がPP又はPETであって鞘部がPEの芯鞘構造の複合合成纖維のものを使用できる。また織物や不織布としては、天然纖維としてコットン、シルク、麻等を、再生纖維として再生セルロース纖維、例えばレーヨン纖維、アセテート纖維等を、合成纖維としてポリオレフィン系纖維、ポリアクリロニトリル系纖維を、ポリエステル系纖維、ポリアミド系纖維、ポリビニルアルコール系纖維、ポリウレタン、ナイロン等を例として挙げることができる。なお、特に不織布の場合には、ウエブフォーミングは乾式（カード法、スパンボンド法、メルトブローン法、エアレイド法）や湿式等の何れか、又は複数を組み合わせて製造してもよい。また、ボンディングは、柱状流を利用したスパンレース、サーマルボンディングニードルパンチ等が挙げられる。

【0089】

陰唇内面から流出する経血吸收性に優れること、化学的刺激が少ないことを考

慮すると、コットン5～30%、レーヨン又はアセテートを70～95%の比率で混合した纖維を水流により交絡させた、目付20～50g/m²、厚み0.3～1.0mmのスパンレース不織布を選択することが好ましい。使用する纖維の纖維長は、コットンであれば15～60mm、レーヨン又はアセテートであれば25～51mmの範囲で、また纖度は1.5～6d texから一般的に選ばれる。

【0090】

有孔プラスチックシートとしては、ポリエチレン(PE)やポリプロピレン(PP)、ポリエチレンテレフタレート(PET)といった熱可塑性樹脂の有孔シートや、多孔性の発泡材等を用いることができる。また、必要に応じて酸化チタンや炭酸カルシウム等から成るフィラーを0.5～10重量%の範囲で混入する事により、白濁化させて使用するのも好ましい。また、熱可塑性フィルムをパーフォレーション、熱エンボス又は機械加工等により開孔した開孔フィルムを使用してもよく、開孔フィルムと不織布との複合シートを使用するようにしてもよい。

【0091】

吸収体13は、液体(経血)の吸収保持が可能であればよいが、吸収体13に使用する材料としては、パルプ、化学パルプ、レーヨン、アセテート、コットン、粒子状高分子吸収体、纖維状高分子吸収体、合成纖維の単独又は混合物から得られるものが好ましい。これらの材料を吸収体に成形する方法は特に限定されるものではないが、例えばエアレイド法、メルトプローン法、スパンレース法、抄紙法等によってシート化されたものが使用される。また、セルロース発泡体、合成樹脂の連続発泡体等も使用することができる。更に、前記シートや発泡体を粉碎した後に吸収体に成形したものを使用することも可能である。

【0092】

吸収体13として使用されるものとして好ましいのは、嵩高であり、型崩れが比較的少なく、化学的刺激の少ないものであり、具体的なものとしては、1～4d texの範囲から選ばれるレーヨン又はアセテートを60～90%と、纖維状高分子吸収体を10～40%の混合比で積層した纖維とを、ニードリングにより

絡ませ、シート化された、目付50～250g/m²、2～5mmの嵩を有する不織布シートがある。

【0093】

裏面側シート12に使用する材料としては、織物、不織布、プラスチック等のシート状構造物であれば特に限定するものではないが、液不透過素材である場合には、PE、PP等を主体とした液不透過性フィルム、通気性の樹脂フィルム、撥水処理されたスパンボンド又はスパンレースなどの不織布の裏面に通気性の優れた樹脂フィルムが接合されたものなどが挙げられる。着用感を損なわない柔軟性を考慮すると、例えばLDPE（低密度ポリエチレン）を主体とした目付15～30g/m²の範囲から得られるフィルムが使用される。

【0094】

前記裏面側シート12は液不透過性素材とすることにより、吸収体13に保持された経血が陰唇間パッドの外へ漏れ出すことを防止することができ、また、透湿性素材から成ることにより、着用時のムレを低減させることができる。これにより、着用者の着用時における不快感を低減させることができるようになる。

【0095】

規制ミニシート片14に使用する材料としては、指を挿入した際に破損しない程度の強度を有することを考慮した上で選択するのが好ましく、不織布シート、弾性伸縮性不織布、フィルム、フォームフィルム、弾性伸縮性フィルム、発泡シート、薄葉紙等の単独又はそれらのラミネート材料から限定なく選択することができる。具体的には、LDPE樹脂を主成分とした厚さ15～30μmのフィルムを選択することができる。また、規制ミニシート片14に対しては、規制ミニシート片14の識別を着用者が容易に行うことができるようするために、着色や模様等の印刷といった方法を用いて、陰唇間パッドの裏面側シートとは異なる色調や模様、色度を有するように調整することもできる。

【0096】

前記規制ミニシート片14は、着用者の指先サイズにかかわらず、本発明に係る陰唇間パッドを効果的に使用することができるようするために、裏面側シート12の短手方向に対して伸長性もしくは弾性伸縮性を持たせることも有効であ

る。

【0097】

規制ミニシート片14に伸長性を持たせるためには、つかみ間隔100mm、引張速度を100mm/分で定速伸張した場合の5%伸長時の応力が0.1~0.5N/25mmである伸長性スパンボンド不織布を使用することができる。

【0098】

また、規制ミニシート片14に弹性伸縮性を持たせるためには、熱可塑性エラストマー樹脂を使用した纖維状シートやフィルムシート、及びそれら熱可塑性エラストマー樹脂や天然ゴム等の弹性伸縮性素材を単独で使用してもよく、又は非弹性伸縮性素材と組み合わせて使用してもよい。

【0099】

本発明の陰唇間パッド1は、生分解性素材及び/又は水分散性素材及び/又は水溶性素材で構成することができる。これにより、陰唇間パッド1は、使用後においてそのまま経時的にもしくは積極的に自然分解されるものとなるため、使用後はそのままトイレに流せるということとなり、使用済みの陰唇間パッド1の廃棄が簡便かつ清潔に行える。即ち、着用者は陰唇間パッド1を廃棄するに際し、トイレに行って便器に向かって内股を開き、陰唇間から陰唇間パッドを便器内に脱落させるだけでよく、着用者はわざわざ手を使って使用済み製品を廃棄するという面倒な作業から開放される。また、これに加えてトイレ内のゴミの低減を図ることもできるという利点もある。

【0100】

また、本発明に係る陰唇間パッド1を内包する個別包装容器をも生分解性素材及び/又は水溶性素材及び/又は水分散性素材で構成することにより、包装容器もトイレ内に流してしまうことができる。これにより、着用者は包装容器の廃棄の煩しさから開放されると共に、トイレ内のゴミの低減をより一層図ることが可能となる。

【0101】

なお、本明細書において、「生分解性」とは、菌類、細菌、放線菌及び他の微生物の存在下、自然界のプロセスに従って、嫌気性/好気性条件下で物質が二酸

化炭素／メタン、水及びバイオマスに分解されることをいい、生分解速度及び生分解度といった合成材料の生分解能が、落ち葉等の自然に生じる材料、もしくは同一環境下で生分解性として一般に認識される合成ポリマーに匹敵することをいう。「水分散性」とは、水解性と同じ意味であって、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中では、繊維同士、少なくとも一般的のトイレ配管を詰まらせることがない程度の小断片に容易に分散される性質のことをいう。「水溶性」とは使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中においては溶解する性質のことをいう。

【0102】

上記に示す条件を満たす素材、構成であれば特に限定されるものでないが、以下に示すものを適用することが可能である。まず、液透過材として用いる繊維としては、天然繊維及び／又は化学繊維を使用することが可能であり、天然繊維としてティッシュ、粉碎パルプ、水溶性樹脂により化学結合したエアレインパルプ、又はコットン等、親水性化学繊維として再生セルロースであるレーヨン、フィブルレーヨン等、合成繊維としてポリエステル、ポリプロピレン、ポリエチレン、エチレン酢酸ビニル共重合体等に親水性処理を施した合成繊維等、合成生分解性繊維としてポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート等、あるいは水溶性を有する素材の例として、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリルなどが挙げられ、中でもパルプやコットンなどの天然繊維、レーヨン、ポリ乳酸等の生分解性を有する繊維を用いることが好ましい。なお、これらを単独もしくは所要の配合により混合して、ウェブ又は不織布に成形して用いることも可能である。ポリ乳酸やポリブチレンサクシネート等の合成生分解繊維のウェブフォーミングは、カード法、スパンボンド法、メルトブローン法又はエアレイン法による乾式や湿式等の何れか、又はこれらを複数組み合わせたものでもよい。

【0103】

ボンディングは柱状流を利用したスパンレース、サーマルボンディング、ニードルパンチ、ケミカルボンディング等が挙げられるが、水分散性を有する成形方法の例として、繊維同士の水素結合でシート状に形成した水解紙、又は繊維を交

絡させシート状に形成した水解紙などが挙げられる。

【0104】

なお、良好な水分散性能を持たせるためには、繊維長を2~51mmの範囲とするのが好ましく、より好適には2~10mmの範囲とするのがよい。更に、水分散性と使用時に破損を生じることのない強度とを考慮した場合には、繊度（太さ）は1.1~4.4d texの範囲から選ぶのが望ましい。

【0105】

また、液透過材の目付は20~60g/m²の範囲とするのが好ましい。液透過材の破断強度（つかみ間隔100mm、引張速度100mm/分で定速伸長した場合の破断強度）は、縦横ともに少なくとも800mN/25mmであり、より好適には、着用時の柔軟性をも考慮して1000~2000mN/25mmの範囲から選ばれる。

【0106】

液透過材の例として具体的なものとしては、1.1~4.4d texで5~10mmの長さのレーヨン繊維と木材パルプとを90対10~70対30の重量比で混合し、目付を25~40g/m²、厚みを0.2~0.5mmに調整した湿式スパンレース不織布が挙げられる。なお、透過材には複数の孔部を設けることもできる。この場合、孔径を0.5~1.5mmの範囲で、孔部面積率（面積当たりの開孔率）を3~20%の範囲で形成すればよい。

【0107】

吸収体13には、天然繊維及び/又は化学繊維を使用することが可能である。天然繊維としてはティッシュ、粉碎パルプ、水溶性樹脂により化学結合したエアレイドパルプ、コットン等が、親水性化学繊維としては再生セルロースであるレーヨン、フィブリルレーヨン等が、合成繊維としてはポリエステル、ポリプロピレン、ポリエチレン、エチレン酢酸ビニル共重合体等に親水性処理を施した合成繊維等が、合成生分解性繊維としてはポリ乳酸、ポリブチレンサクシネット等が、あるいは水溶性を有する素材の例として、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリルなどが挙げられ、中でもパルプやコットンなどの天然繊維、レーヨン、ポリ乳酸等の生分解性を有する繊維を用いるこ

とが好ましく、これらを単独又は所要の配合により混合して用いてもよく、更にはアルギン酸ソーダ、デンプン、スターチ、カルボキシメチルセルロース等の高吸収性ポリマーを粒状物もしくは纖維状物に成形し、この高吸収性ポリマーなどと所要の配合により混合して用いることも可能である。

【0108】

このような吸収体13の具体的な例としては、木材パルプを目付150～500g/m²に積層してティッシュに封入し、これをプレス装置にて厚み2～10mmに調整したものが挙げられる。デンプンなどの吸収材を5～30g/m²、上記吸収体に混入させることにより、経血の吸収や保持能力を増加させることも可能である。

【0109】

生分解性及び／又は水溶性を有する液不透過素材の例として、メチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カルボキシメチルセルロースなどのセルロース誘導体、ポリビニルアルコール、アルギン酸ソーダ、ポリアクリル酸ソーダ、ポリアクリル酸エーテル、ポリビニルピロリドン、イソブチレンと無水マレイン酸との共重合体のような水溶性高分子、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、デンプン、デキストリンなどを挙げることもできる。

【0110】

これらについては、単独もしくは所要の配合により混合してフィルムシートに成形してもよく、更にはこのフィルムシートにシリコンなどの撥水素材を塗布あるいは混入してもよく、また、不織布にラミネート処理成形するようにしたものであってもよい。

【0111】

このようなシートの具体的な例としては、ポリビニルアルコールを目付20～50g/m²に調整したフィルムの少なくとも片面、より好適には両面に、シリコン又はフッソを0.5～5μm塗布したものが挙げられる。

【0112】

規制ミニシート片14に好適な材料としては、ポリビニルアルコールフィルム、あるいは、ポリビニルアルコールとティッシュのラミネート材などが挙げられ

る。

【0113】

また、本発明に適用される接合としては、水溶性又は水膨潤性を有するポリビニルアルコールなどによる接着、ヒートシール、あるいは熱可塑性の水分散性接着剤を用いたヒートシール、又は水素結合などによる接合方法を用いることができる。

【0114】

水溶性素材又は水分散性素材である包装袋の具体的な例としては、目付15～40g/m²に調整されたティッシュと目付20～50g/m²のポリビニルアルコールとをラミネートし、ポリビニルアルコール側に0.5～1μmの範囲でシリコンが塗布された複合材料や、ポリ乳酸繊維を主体として目付15～40g/m²に調整されたスパンボンド不織布等が挙げられる。

【0115】

[長凸状領域]

図4は、本実施形態の陰唇間パッド1の長凸状領域3を上方から押し潰した際の概略平面図である。長凸状領域3は、表面側シート11において平坦状に広がるように押し潰れることが可能に形成されているため、押し潰れた際の身体側から見た長凸状領域3の形状が、図4に示すように平面視三角形状（但し頂角が存在しない）となる。このため、長凸状領域3を内股に接触させて陰唇間パッド1を装着し、この状態で下着等を履いたときには、長凸状領域3が内股に押し付けられることにより平面視三角形状に押し潰れる。これにより陰唇内から外陰部及びその周辺部の各形状に倣って身体側面が接触することが可能となる。

【0116】

図5は、長凸状領域3が両端部における中空部5の断面積が相違することを説明するための説明図である。本実施例においては、長凸状領域の中空部5の断面積は、前方の断面5aにおいて最大面積を有し、後方の断面5bに向かって連続的に小さくなっている。このため、本実施例の陰唇間パッド1を使用するに際しては、図6に示すように、人差し指又は中指の腹を裏面側シート12のシート面12aに接触させながら断面5aから断面5bに向かって挿入していくことによ

り、指先に陰唇間パッド1がしっかりと保持される。

【0117】

このように指を挿入することより、受容器が多く点在している指の第1関節の指紋面が裏面側シート12の反身体側面12aに接触した状態となる。このため、陰唇間パッド1を陰唇に誘導する際には、図7に示すように、陰唇18に表面側シート11の身体側面11aを接触させて感覚が鋭い指先によって陰唇18の凹凸を感知しながら、目視困難な陰唇間の奥深くに、陰唇間パッド1の身体面側に形成された長凸状領域3を確実に誘導することができる。

【0118】

[陰唇間パッドの形状]

本実施例に係る陰唇間パッド1の形状は、陰唇間に装着するのに好適な形状であればよく、橢円型、卵型、瓢箪型、雫型等の形状としてもよいが、図8に示すような形状とすることにより、陰唇間及び指の双方にフィットしやすいものとすることができる。

【0119】

なお、本実施例の陰唇間パッドを構成する各シートは柔軟性シートから成り、外部からの押圧力により弾性変形自在となっているため、陰唇間パッド1の形態は、見かけ上折れ曲がったり捻り状に変形したりする場合があるが、各シートの変形を取り除いて引き延ばした状態において、上述したような形状をなす。

【0120】

なお、中空部5においては短手方向における断面形状は、上述のように、各面を引き延ばした状態において略三角形状の形態をなすものであるが、指が挿入された段階では指の厚みに倣って橢円状又は円形状に変形されたり、使用前に中空部5の内側に倒れて隣り合う面と接触するように変形されてたりする場合がある。しかし、各面を所定形状に引き延ばすと、上述した本発明における構造を有する形状をなすことができるのである。

【0121】

[陰唇間パッドの変形状態]

次に、着用したときの本実施例に係る陰唇間パッド1の変形状態について説明

する。図9は陰唇間パッドの長凸状領域が変形した状態を示す図であり、図10 (A) は図9のX-X視断面図であり、図10 (B) は図9のY-Y視断面図である。

【0122】

上述のように、長凸状領域3の内側は中空部5となっているため、陰唇間パッド1を装着した着用者が下着等を履いたときにおいて、図9に示すように、長凸状領域3は、その一部である非変形領域3aにおいて元の形状を維持し、それ以外の領域である変形領域3b及び3cにおいて略平坦状に変形する。即ち、図10 (A) に示すように、非変形領域3aは、その形状を維持したまま陰唇間の奥に入り込み、図10 (B) に示すように、変形領域3b及び3cは、略平坦状に変形して外陰部前後の周辺部分に密着することになる。このように、長凸状領域3が着用者の陰唇と接触して適宜その形状を変形することにより、経血の伝い漏れをほぼ遮断することができる。

【0123】

そして、長凸状領域3に連接する延長領域4は、図9に示すように外陰部を覆うようにして装着されるため、外陰部の内壁に向かって高速かつ多量に流れる体液の流れに対してほぼ垂直に位置づけられることとなる。このため、陰唇間パッドの短手方向からのモレを防止することが可能となるのである。

【0124】

[規制ミニシート片の接合]

次に、本実施例に係る陰唇間パッドにおける規制ミニシート片の接合について説明する。図11は長手方向における裏面側シートに対する規制ミニシート片の接合状態を示す図であり、図12は長手方向における裏面側シートに対する規制ミニシート片の接合状態を示す図である。

【0125】

まず、裏面側シート13の長手方向における規制ミニシート片14の接合状態を説明する。裏面側シート13の長手方向においては、図11 (A) に示すように、前記規制ミニシート片14の裏面側シート12に対する非接合部として、指挿入用口となる非接合部14a以外に、第2の非接合部14bが存在する。この

第2の非接合部14bを、中空部5内に着用者が指を挿入したときに指先が規制ミニシート片14に覆われるようにして位置付けることにより、指先が露出して陰唇に残存している経血に指先が接触するという事態を未然に防ぐことができる。

【0126】

なお、規制ミニシート片14の数が複数枚であっても、図11(B)に示すように、着用者の指先を規制ミニシート片14が覆うことができるよう、最端に位置する非接合部14bが位置付けられるのであれば、規制ミニシート片14の枚数は複数枚であってもよい。

【0127】

また、図12に示すように規制ミニシート片の一方端部を接合部14cとして裏面側シートの端部12bに位置付け、裏面側シート11と規制ミニシート片14の間に形成された指挿入用空間をポケット状とすることにより、誤って指先が接触部付近に触れるというような事態が生じることを確実に回避でき、より衛生的なものとすることもできる。

【0128】

規制ミニシート片14は、長凸状領域3における非変形領域3aと対応する位置において裏面側シート12と接合させることにより、吸収層シート2の屈曲部の広がりが規制することが可能となる。これにより、長凸状領域3が膣口付近で平坦状に変形してしまうことを防止することができる。そして、規制ミニシート片14は、裏面側シート12とは接合部17においてのみ接合されており、接合部17から内側は空洞となっているため、当該規制ミニシート片14が長凸状領域3における非変形領域3aの上下方向への軽い変形を不必要に制限することはないのである。

【0129】

規制ミニシート片14は、指挿入用空間を形成するように内側が裏面側シート12と貼着されていないため、陰唇間パッド1を装着後に当該指挿入用空間から指が引き抜かれた後は、図13に示すように身体側とは反対方向に弛んでいる。このため、使用済み陰唇間パッド1を取り外すに際しては、図14に示すように

弛んだ状態の規制ミニシート片14を引っ張ることができる。また、規制ミニシート片14を液不透過性、あるいは透湿性素材とすることにより、着用者が規制ミニシート片14を掴んだ場合でも、指が汚染されることなく、陰唇間パッドを取り外すことが可能となる。

【0130】

次に、裏面側シートの短手方向における規制ミニシート片の接合状態について説明する。図15（A）に示すように、表面側シート11と裏面側シート12との接合箇所である周縁部15と同位置に接合部17を位置付けて一緒に固定した場合には、周縁部15の部分が硬くなってしまい、着用感を阻害する。これについては、周縁部15の部分以外に接合部17を配置して規制ミニシート片14を固定することにより回避することができる。

【0131】

しかし、図15（B）に示すように、当該接合部17を周縁部15の部分よりも外側に位置付けた場合には、図15（C）に示すように着用者の動作に応じて動くことにより摩擦が生じ、着用者に刺激を与えてしまう可能性もあると考えられる。

【0132】

このようなことから、実施に際しては、図15（D）に示すように、周縁部15と接合部17とは位置をずらし、かつ、周縁部15の部分よりも内側に接合部17を配置するのが好ましい。

【0133】

規制ミニシート片14を取り付けるに際しては、接着剤として感圧型ホットメルト、感熱型ホットメルト等を使用することができ、また、その塗布形態としては、面状、線状、螺旋状、点状等のものを採用することができる。

【0134】

なお、規制ミニシート片14は、上記のような取り付け部分に適合するように予め裁断しておいてもよく、また、接合する箇所を他のシートと異ならせるだけで、裁断は他のシートと一緒に行うようにしてもよい。

【0135】

[粘着剤の塗布]

表面側シート11の着用者の肌と接触する部分には、粘着剤を予め塗布しておくことにより、陰唇間パッドの陰唇間内への固定及び密着性をより強化して、着用者の身体動作により陰唇間パッド1と身体との間に隙間が生じるのを防止することができる。

【0136】

このような粘着剤としては、水溶性高分子、架橋剤、可塑剤、水分から成るゲル粘着剤等を用いることができる。ここで使用することができる水溶性高分子としては、例えばゼラチン、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリビニルアルコール、カルボキシルメチルセルロース等が挙げられ、架橋剤としては塩化カルシウム、硫酸マグネシウムのような水溶性金属塩が挙げられ、可塑剤としてはグリセリン、ワックス、パラフィン等が挙げられる。

【0137】

他の粘着剤としては、いわゆる感圧型ホットメルトといわれる粘着剤も使用することができる。因みに、この感圧型ホットメルトと呼ばれている本粘着剤の主成分はスチレン-イソプレン-スチレンブロック共重合体(SIS)、スチレン-ブタジエン-スチレンブロック共重合体(SBS)、スチレン-エチレン-ブタジエン-スチレンブロック共重合体(SEBS)、スチレン-エチレン-プロピレン-スチレンブロック共重合体(SEPS)のような合成ゴム樹脂が主体とされたものであり、感圧型ホットメルトは、そこにテルペン樹脂、ロジン樹脂である粘着付与剤とワックス等の可塑剤を溶融混合することによって得られる粘着剤である。また、この他の粘着剤として、シリコン系粘着剤も使用することが可能であり、そのようなものとしては、シリコン樹脂、フッ素樹脂を主成分とし、白金、モリブデン、アンチモンのような金属塩から得られる架橋剤、エステル系ワックス、グリセリン、マシンオイルから得られる可塑剤を混合して得られる混合物等が挙げられる。

【0138】

ここで、塗布安定性をも考慮した場合には、粘着剤としては感圧型ホットメルトが好ましい。より具体的には、SEBSであるスチレン系ブロック共重合体1

5～25重量%、可塑剤15～35重量%、粘着付与剤40～70重量%で溶融混合した粘着剤である。また、この感圧型ホットメルトについては、場合によつては酸化防止剤、蛍光防止剤等を0.1～1.0重量%の範囲で添加することも可能である。

【0139】

なお、粘着剤に対しては、粘着剤の部分を、一般的に得られる剥離紙である薄葉紙にシリコン樹脂をコートしたシート又はフィルムにシリコン樹脂をコートしたシートで被覆することにより、保管中の剥離や破損を防止し得る。

【0140】

粘着剤の配置の仕方としては、面状、ドット状、網目状、筋状等のものが挙げられる。粘着剤の塗布位置は、身体への固定を可能とするものであれば特に限定されるものではないが、陰唇付近、特に陰唇の手前部分にある発毛部分の存在を考慮した上で、陰唇間パッドの両側部付近に筋状に1～5mm程度の幅寸法の範囲で塗布をするのが好ましい。

【0141】

この粘着力の評価方法の一例の詳細について説明する。かかる評価方法は、ズレ止めテープの離剥力（図16）、及び、ズレ止めテープのせん断力（図17）を測定するものである。使用器具としては、定速伸張引張試験機及び80mm×50mmのステンレス板35が必要である。評価試験の準備として、予め試験対象となる製品を、摂氏20℃の室温に30分放置しておく。そして、ホットメルトにセパレーターをつけたまま、製品からシート36を剥がす。このとき、吸収体37側にくつついているティッシュをテープが濡れないように水に浸して剥がし取る。更に、製品の前から幅寸法50mm、長さ寸法60mmをB方向に切り取る。つかみ部分としてエンドシール部38を残しておく。なお、エンドシール部38が短い場合には、ステンレス板と同じ長さになるようにガムテープを貼着する。次に、ステンレス板35にシート36をその幅が重なるように軽くのせ、2kgのローラを片道かけることにより、ポリエチレンフィルム下の粘着材を圧縮した後に、更に摂氏20℃の室温に30分間放置する。

【0142】

このようにして得られた試験シートを用い、剥離条件としてはチャック間隔を70mm、引張速度を100mm/minとし、剥離長さ寸法を50mmとする。試験シートは、縦寸法を38mm、横寸法を25mmとし、縦方向の両端部6.3mmを余して中央部を中心として25mmの部分に貼着させておく。そして、この試験シートをチャックにセットする。ここでは振り子にかかる長さがばらつかないようにチャックにセットする長さで調節する。採取箇所の左右各ヒンジ上横の試験シートは、ヒンジが上側であるチャック側になるようにセットする。目盛りが3～6の間になるように補助錐を取り付ける。スイッチを押して、サンプルから振り子の回転ロッドが離れる瞬間の目盛りを読む。これを上記縦方向の両端部において行う。剛柔度は次の計算式から得られるものとする。すなわち、試験シートの左側と右側の平均値（1）と、錐を入れた場合の孔の位置としての1インチ目の剥離力と2インチ目の剥離力の2倍値と4インチ目の剥離力の4倍値を5で割った値（2）と、長さ寸法を幅寸法で割った値（3）とを乗算した値を剛柔度とする。このような評価方法により得られた値により粘着力の評価を行うのである。

【0143】

上記測定方法で測った場合において、着用者の肌への負担も考慮すると、剥離強度の測定値が100～2000mN、せん断力強度の測定値が2900～15000mNの範囲であることが好ましい。

【0144】

【陰唇間パッドの他の使用形態】

本実施形態の陰唇間パッド1は、図18に示すように、通常の生理用ナプキン30と併用して用いることもできる。装着方法としては、陰唇間パッド1を陰唇間内へ装着し、生理用ナプキン30を下着に装着する。本実施例に係る陰唇間パッド1は、図9に示すように、着用者の陰唇形状に応じて変形するため、経血のモレ防止機能が高いものであるが、このように生理用ナプキンと併用することにより、経血量が多い日であっても、本発明の陰唇間パッドをより効果的に用いることができる。

【0145】

本発明に係る陰唇間パッドを個別包装するに際しては、包装容器開封後すぐに指を挿入できるように、開封方向と指先挿入方向とが同一方向となるように包装容器と異方性を持たせて内包するのが好ましい

【0146】

内包するに際しては、指挿入のための規制ミニシート片14が破り口に近くなるように配置したり、包装容器の開封時に指挿入用口19が自然に開くようにされているのであれば、陰唇間パッド1を折り畳んで内包させても構わない。例えば、図19（A）のように規制ミニシート片14が内側になるようにしてもよく、また、図19（B）のように、規制ミニシート片14が外側になるようにしても構わない

【0147】

このように、規制ミニシート片14と裏面側シート12との間に形成された指挿入用口19に着用者が簡易かつ迅速に指を挿入することができるような状態で個別包装することにより、着用時間の一層の短縮化を図ることが可能となる。

【0148】

[陰唇間パッドの装着状態]

次に、陰唇間パッド1を着用者の陰唇に装着した状態について説明する。まず、図20は、既成の突出部21を有する陰唇間パッドの装着状態を説明する説明図であり、図21は、裏面側シートの後方端部に規制ミニシート片が存在していない（図11参照）本実施例の陰唇間パッドの装着状態を説明する説明図であり、図22は裏面側シートの後方端部に規制ミニシート片が存在しているポケット状の指挿入用空間を形成する（図12参照）本実施例の陰唇間パッドの装着状態を説明する説明図である。

【0149】

図20に示すように、既成の突出部21を有する陰唇間パッドは、本実施例の陰唇間パッドのように突出部21の前後が平坦状に広がることはない。このため、突出部21以外の部分においては着用者の身体と陰唇間パッドの部分において隙間を生じてしまう。

【0150】

これに対し、図21に示される本実施例の陰唇間パッド1においては、規制ミニシート片14が取り付けられていない二ヶ所に対応する部分において、長凸状領域3の一部である変形領域3b及び3cが、着用者の陰唇前後において平坦状に変形している。このため、図20の場合のように隙間が発生することがない。

【0151】

また、図22の陰唇間パッドにおいては、裏面側シート12の後方端部12bにも規制ミニシート片14が接合されているため、規制ミニシート片14が存在していない変形領域3bのみが着用者の陰唇前方において平坦状に変形する。このため、陰唇が後方を向く形状の利用者にとってモレ防止に効果的である。このように、規制ミニシート片14の取り付け位置を適宜変更することにより、着用者の選択の幅を広くすることが可能である。

【0152】

このように、陰唇間に長凸状領域3が挟み込まれた後は、図23に示されるように、延長領域4が外陰部を覆うように変形して位置付けられる。これにより、長凸状領域3で吸収しきれなかった経血が陰唇間パッドの短手方向に対して流出することを防止することが可能になる。

【0153】

【発明の効果】

以上のような本発明によれば、陰唇間パッドの身体側面に設けられた長凸状領域が着用者の陰唇形状に応じて適宜変形するため、陰唇間パッドと着用者の内股との間に隙間が発生することがなく、経血のモレの発生を防止することができる。

【0154】

そして、規制ミニシート片を取り付けた本発明によれば、着用者は上述の長凸状領域を容易に陰唇間に嵌装せしように陰唇間パッドを装着することができるため、装着ミスを著しく低減することができる。また、当該規制ミニシート片が適切な位置に取り付けてられているため、従来の場合と比較して、装着時における経血の指先付着を防止する効果も高められている。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本実施形態の陰唇間パッドの身体側を示す概略斜視図である。

【図2】 本実施形態の陰唇間パッドの反身体側を示す概略斜視図である。

【図3】 本実施形態の陰唇間パッドを示す図1の断面図である。

【図4】 本実施形態の陰唇間パッドの長凸状領域を上方から押し潰した際の概略平面図である。

【図5】 本実施形態の陰唇間パッドを示し長凸状領域の両端部における中空部の断面積が異なることを説明するための説明図である。

【図6】 本実施形態の陰唇間パッドを使用する際に中空部に人指し指を入れる様子を説明するための説明図である。

【図7】 本実施形態の陰唇間パッドを陰唇間に装着する状態を表す図である。

【図8】 本実施形態の陰唇間パッドの他の形態を示す図である。

【図9】 本実施形態の陰唇間パッドの長凸状領域が変形した状態を示す図である。

【図10】 本実施形態の陰唇間パッドの長凸状領域の断面図である。

【図11】 本実施形態の陰唇間パッドに複数の規制ミニシート片が取り付けられている場合の裏面側シートにおける非接合部の位置を示す図である。

【図12】 本実施形態の陰唇間パッドに取り付けられた規制ミニシート片の一方端部が裏面側シートに接合されている状態を説明する説明図である。

【図13】 本実施形態の陰唇間パッドの規制ミニシート片が身体とは反対側に弛んでいる状態を示す図である。

【図14】 本実施形態の陰唇間パッドを規制ミニシート片を引っ張って取り外す状態を示す説明図である。

【図15】 規制ミニシート片の接合状態を説明するために陰唇間パッドの短手方向の断面を示した断面図である。

【図16】 ズレ止めテープの離剥力測定の実験状況を示す図である。

【図17】 ズレ止めテープのせん断力測定の実験状況を示す図である。

【図18】 本実施形態の陰唇間パッドを生理用ナプキンと併用して使用する状態を示す図である。

【図19】 本実施形態の陰唇間パッドが折り畳まれて、包装容器に内包されてい

る場合の開封状態を示す図である。

【図 2 0】既成の突出部が存在する陰唇間パッドを装着した状態を説明する説明図である。

【図 2 1】裏面側シートの後方端部に規制ミニシート片が存在していない本実施例の陰唇間パッドの装着状態を説明する説明図である。

【図 2 2】裏面側シートの後方端部に規制ミニシート片が存在する本実施例の陰唇間パッドの装着状態を説明する説明図である。

【図 2 3】本実施例の陰唇間パッドに設けられた延長領域が外陰部を覆う状態を説明する説明図である。

【図 2 4】既成の盛り上がり領域を有する生理用ナプキンに係る従来例の常態を示す図である。

【図 2 5】指挿入穴を有する尿失禁防止パッドに係る従来例の常態を示す図である。

【図 2 6】指挿入穴を有する尿失禁防止パッドに係る従来例の指の挿入状態を説明する図である。

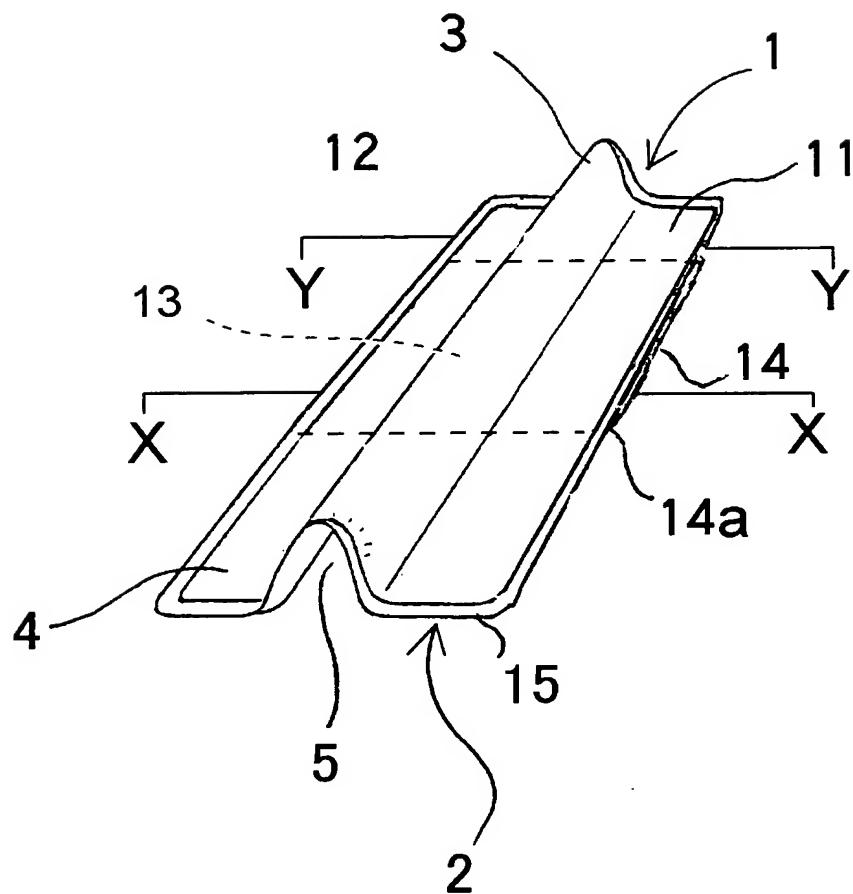
【符号の説明】

- 1 陰唇間パッド
- 2 吸収層シート
- 3 長凸状領域
- 4 延長領域
- 5 中空部（長孔部）
- 1 1 表面側シート
- 1 2 裏面側シート
- 1 3 吸収体
- 1 4 規制ミニシート片
- 1 5 周縁部
- 1 9 指挿入用穴
- 2 1 既成の突出部
- 3 0 生理用ナプキン

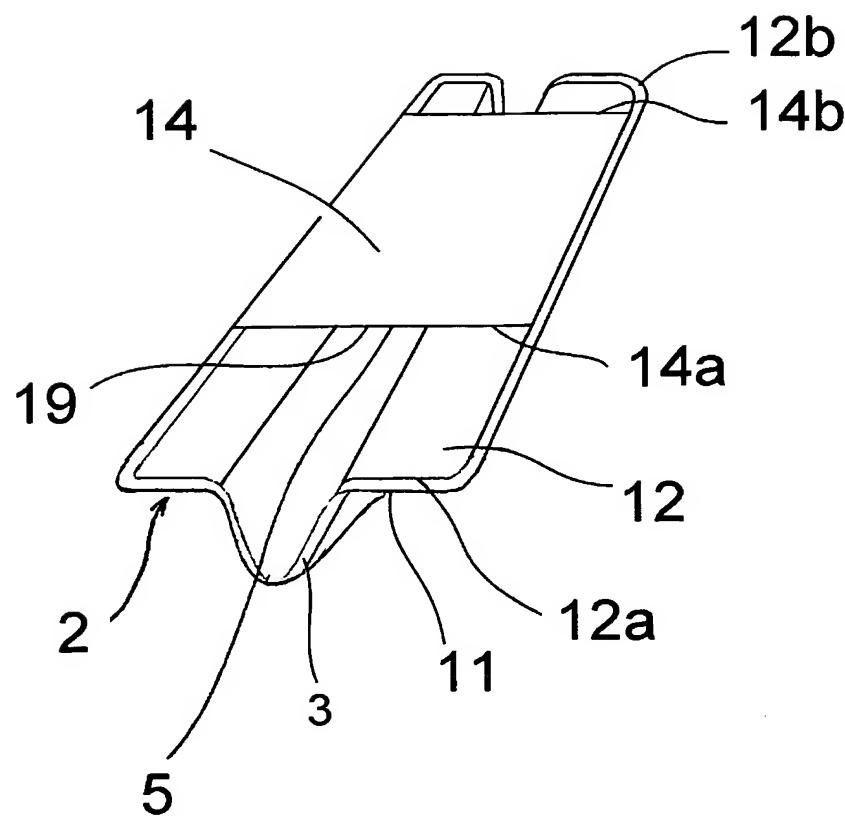
- 35 ステンレス板
- 36 シート
- 37 吸収体
- 38 エンドシール部
- 39 ポリエチレンフィルム
- 40 包装容器
- 41 開封口
- 60 突起部
- 70 指挿入穴

【書類名】 図面

【図1】

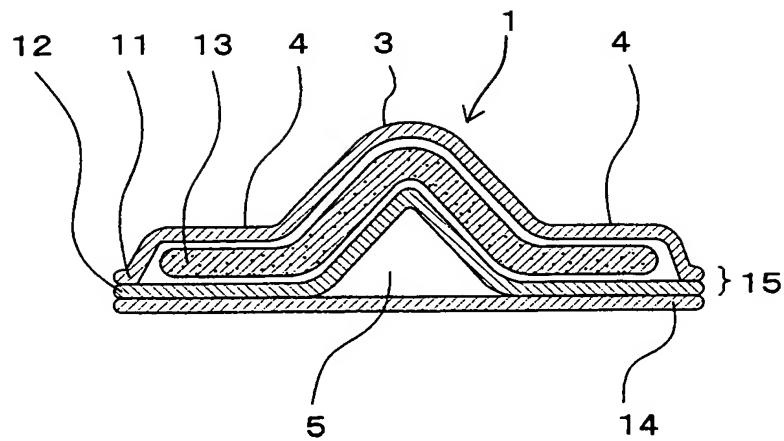


【図2】

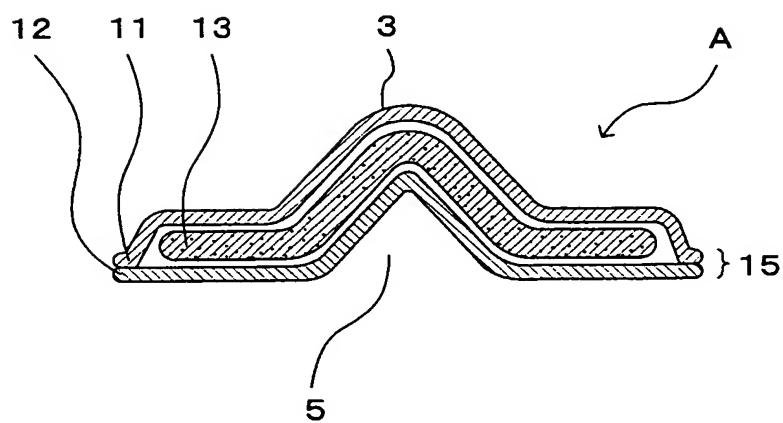


【図3】

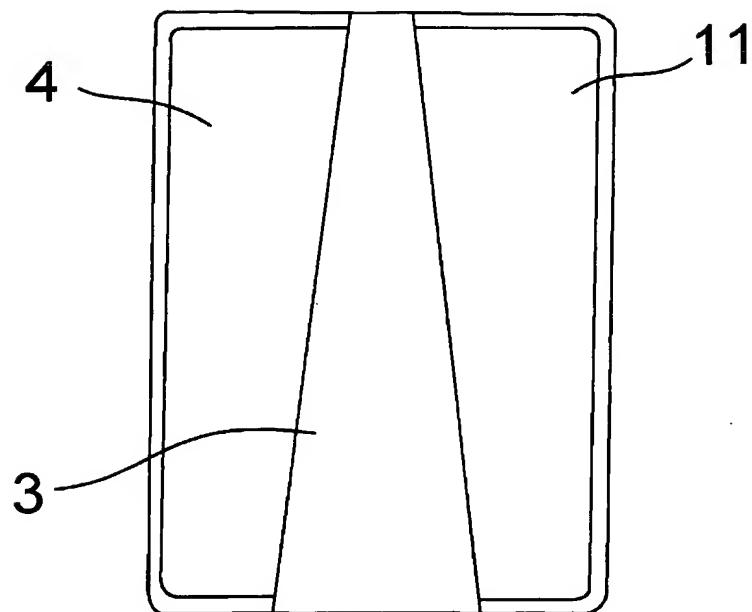
(A)



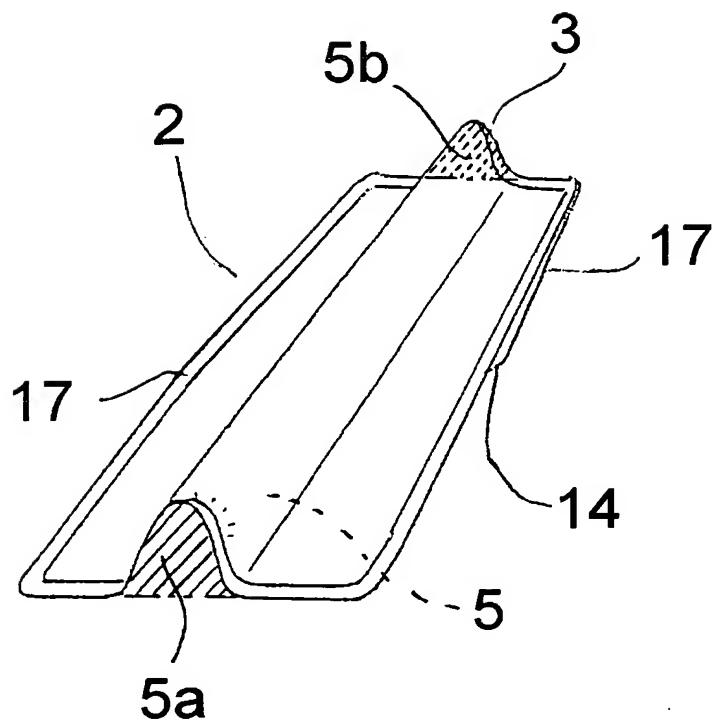
(B)



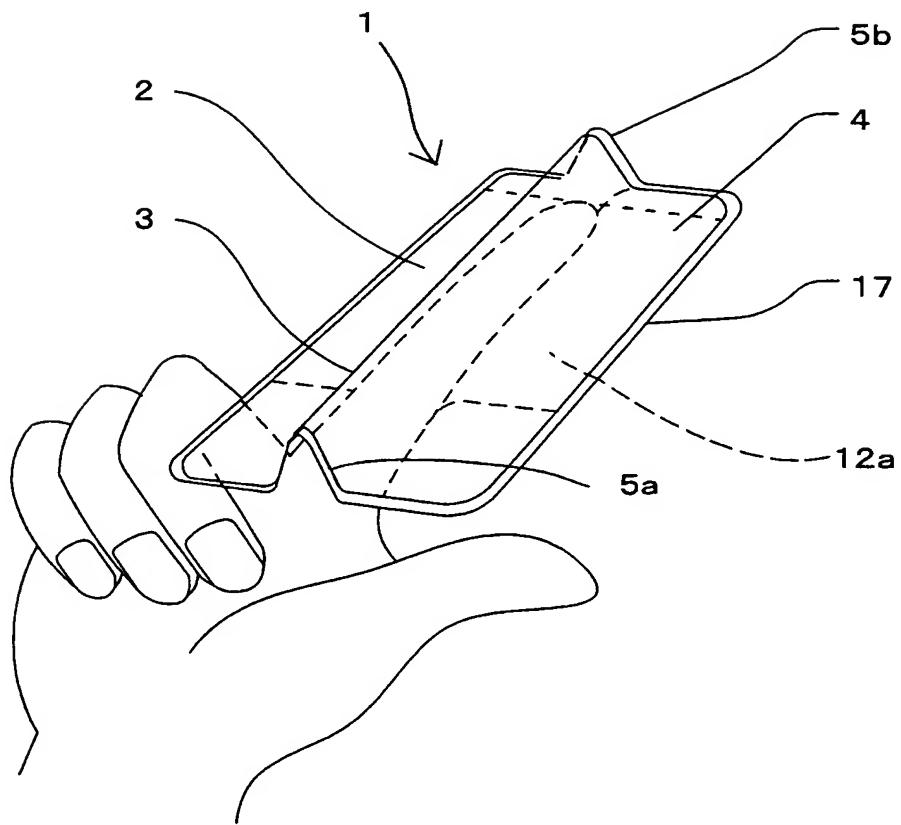
【図4】



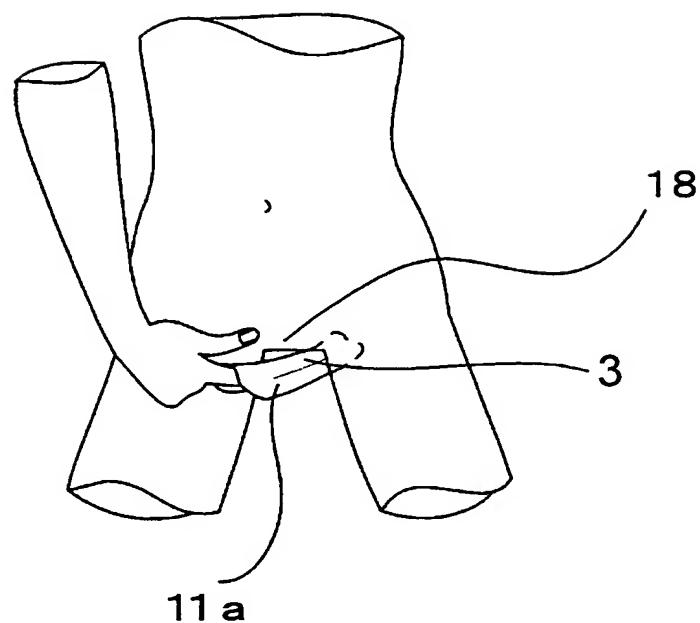
【図5】



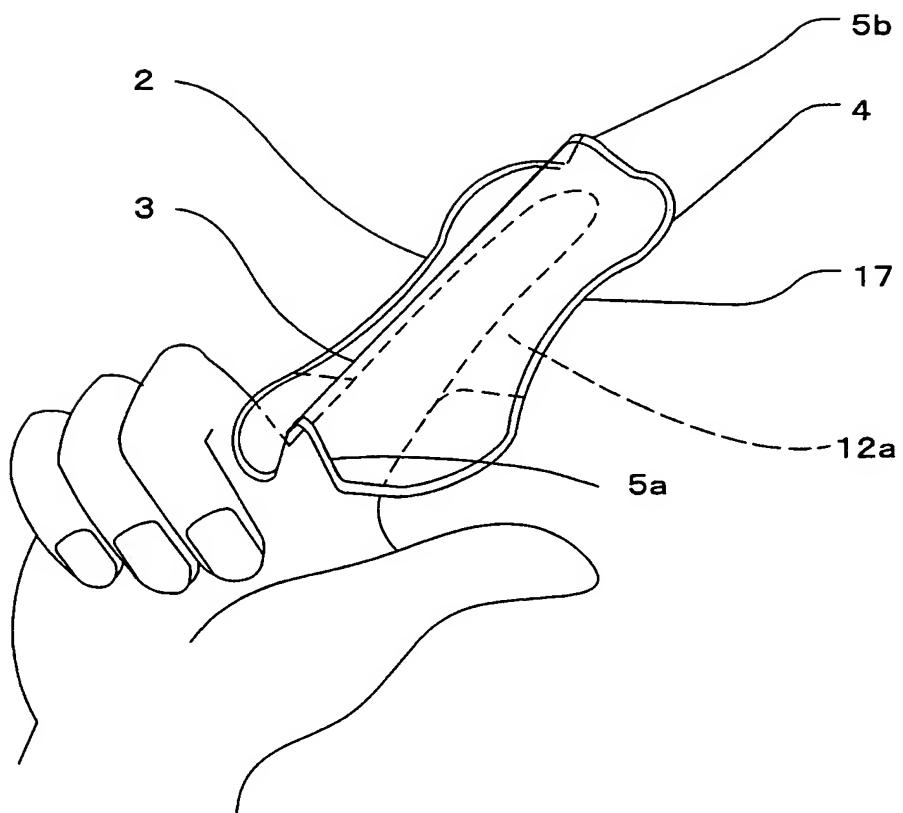
【図6】



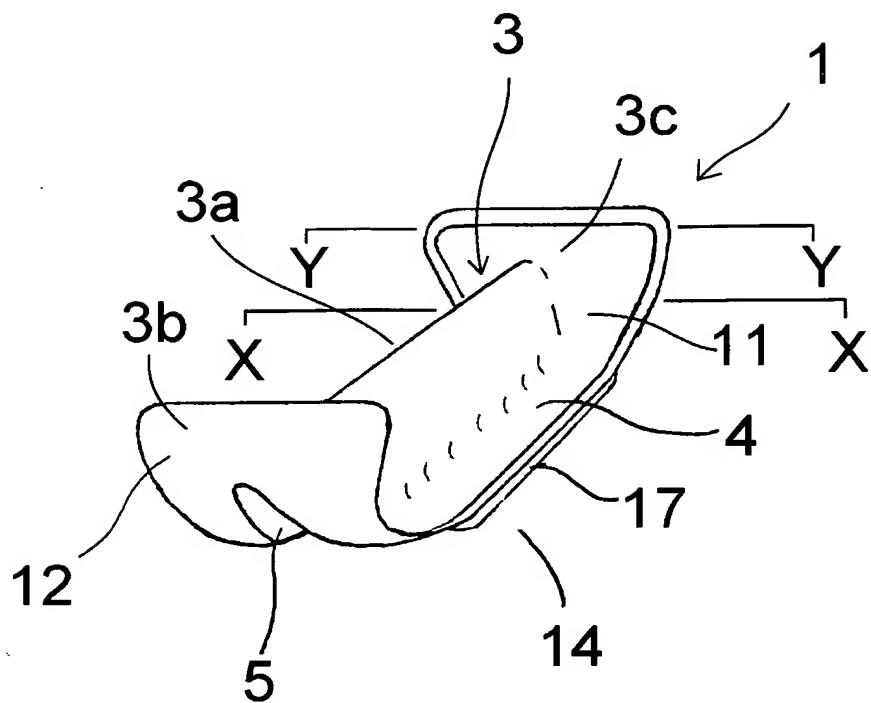
【図7】



【図 8】

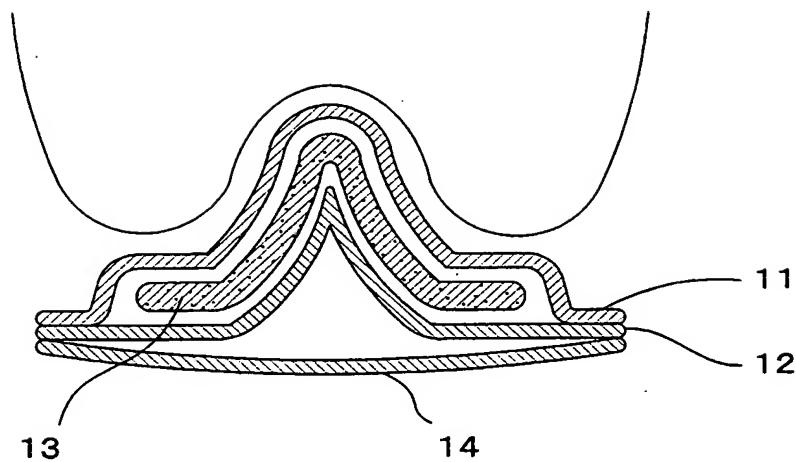


【図9】

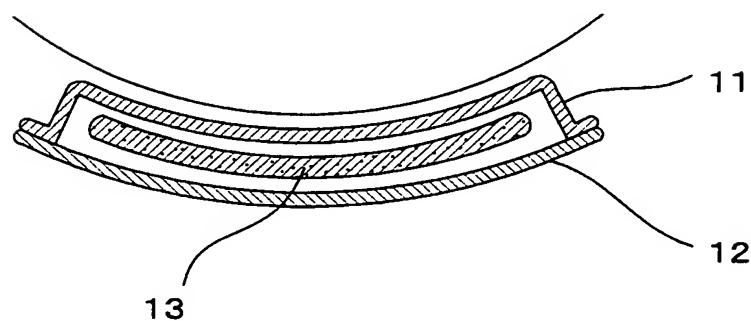


【図10】

(A)

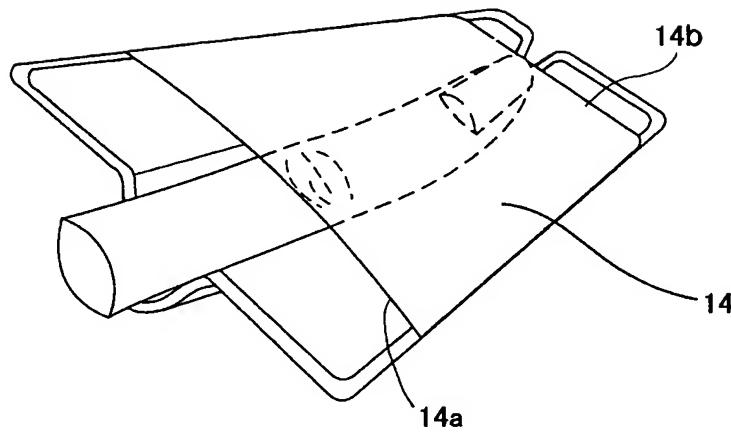


(B)

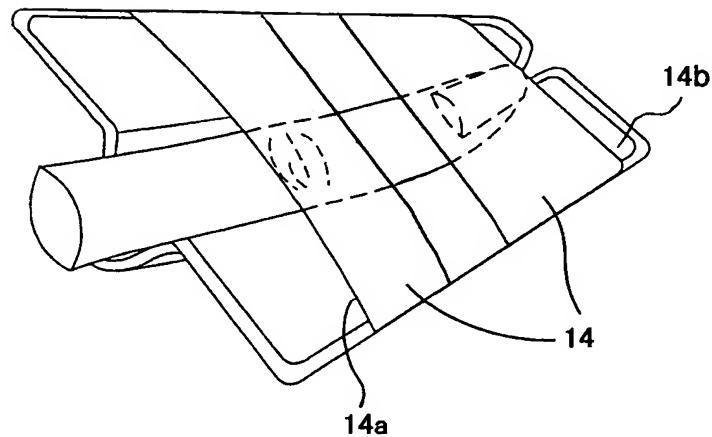


【図11】

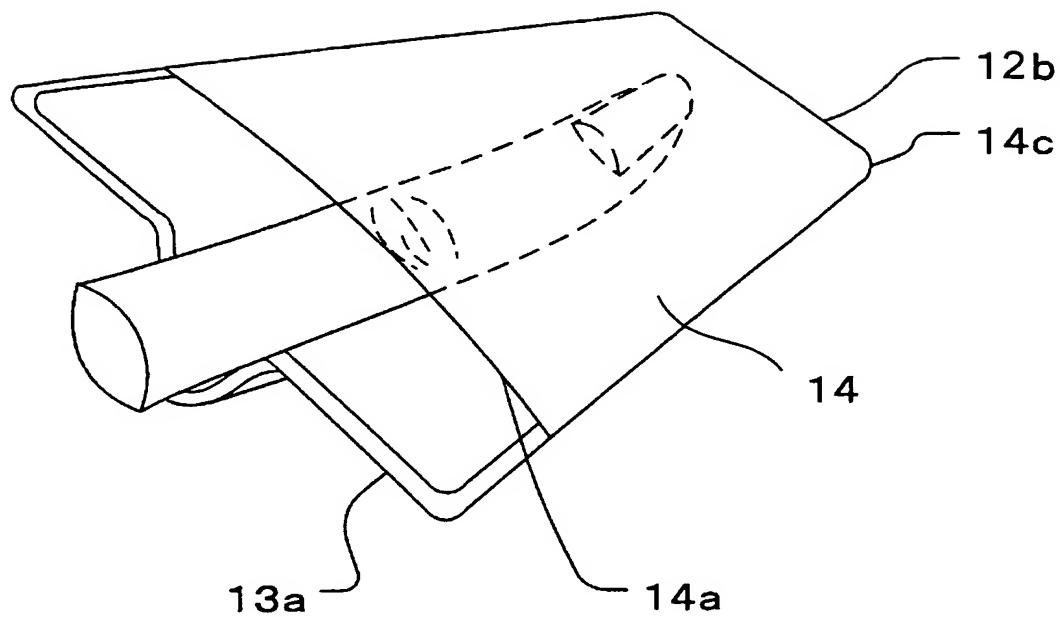
(A)



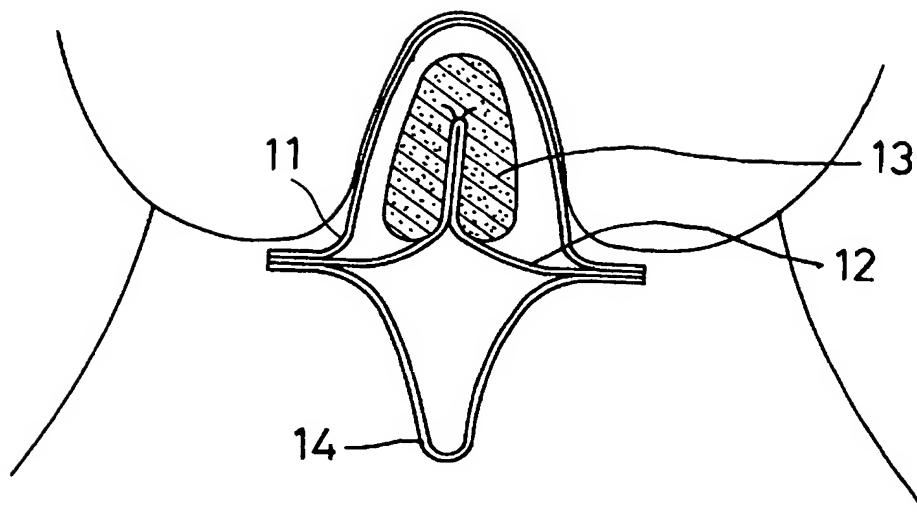
(B)



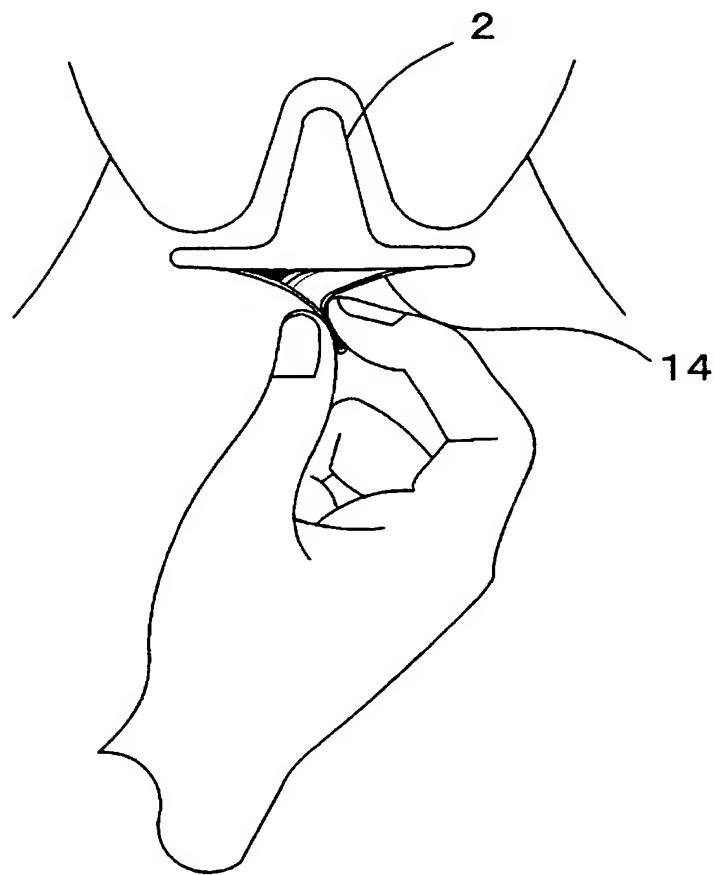
【図12】



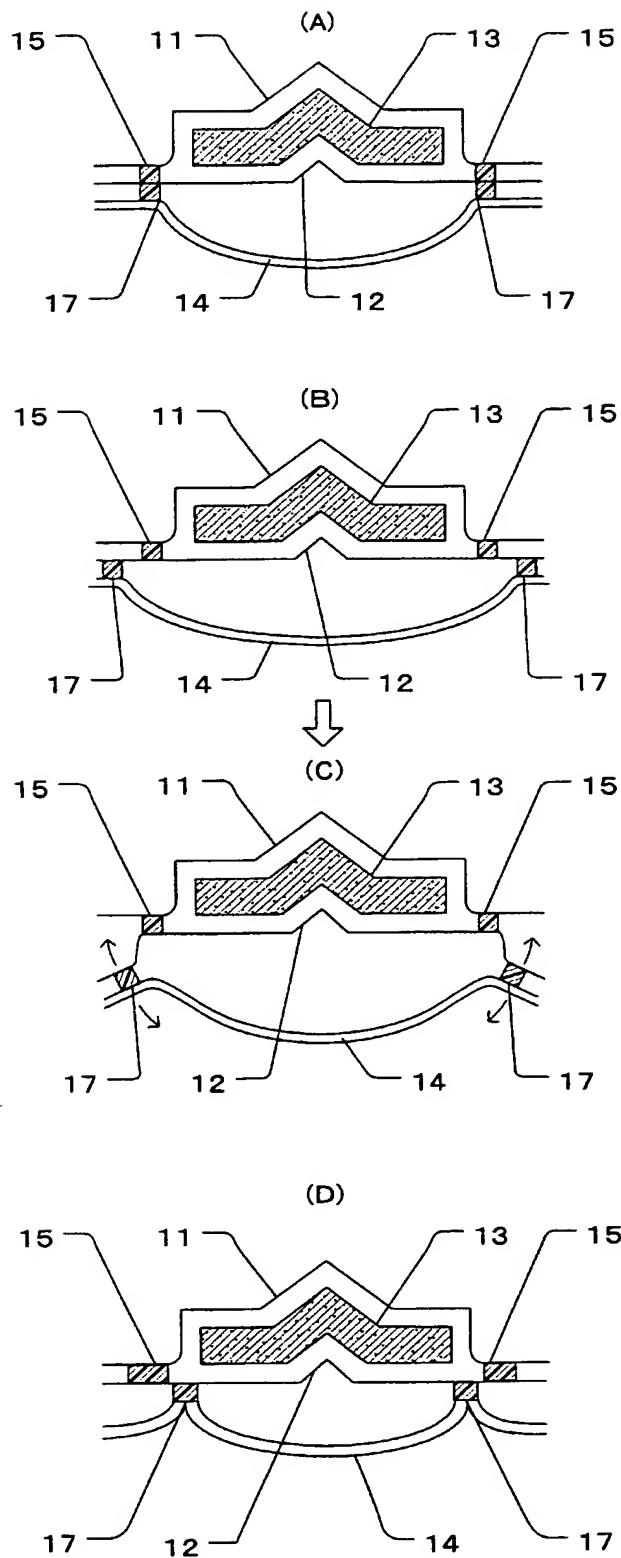
【図13】



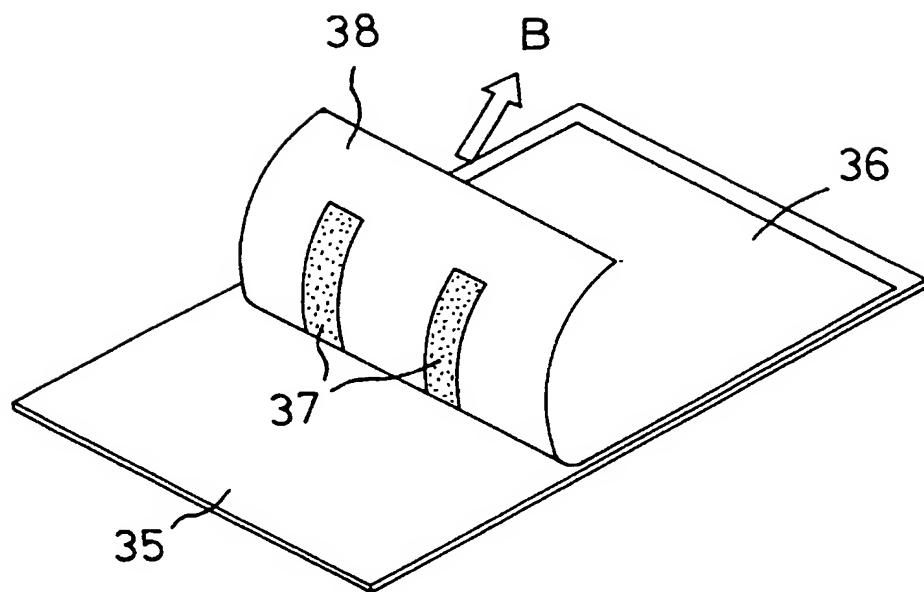
【図14】



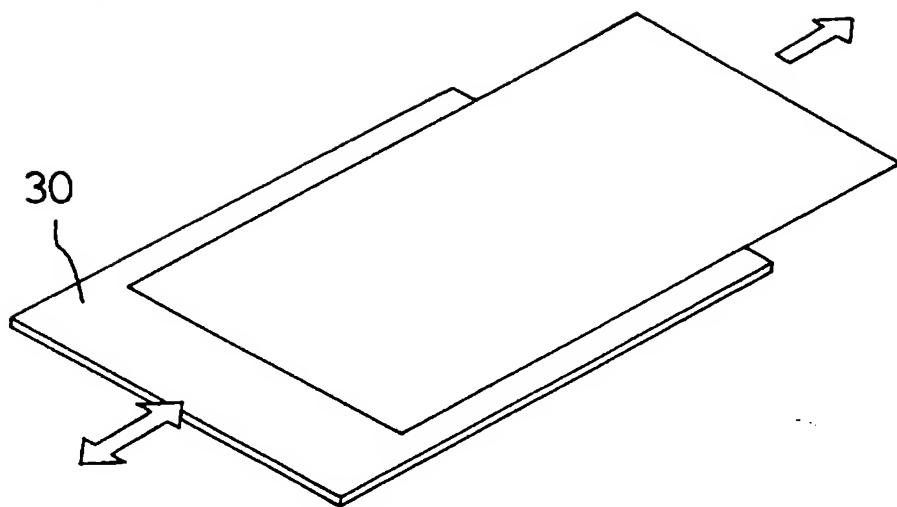
【図15】



【図16】

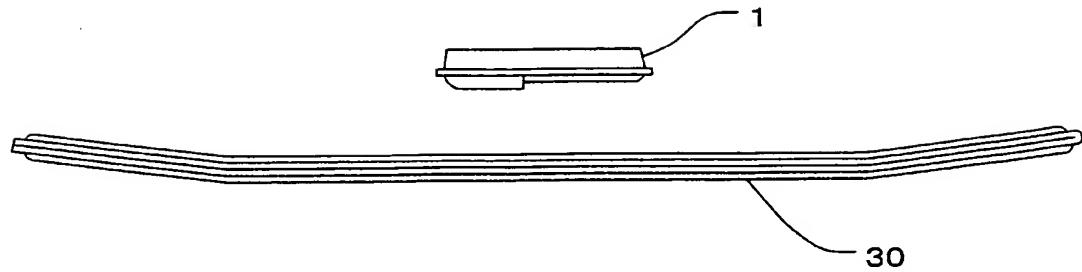


【図17】

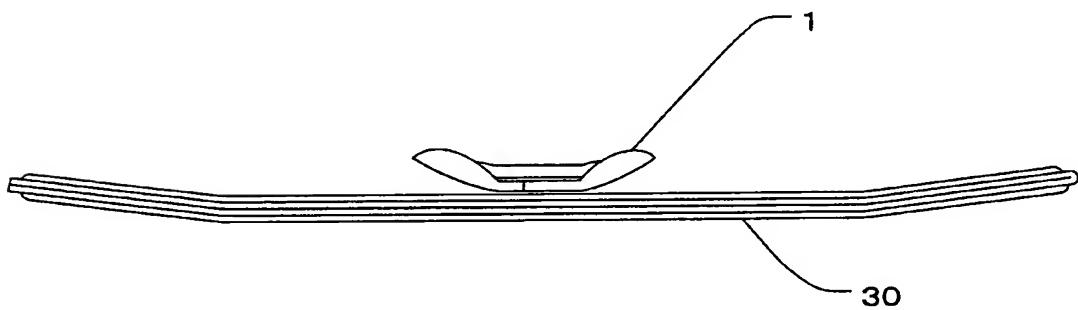


【図18】

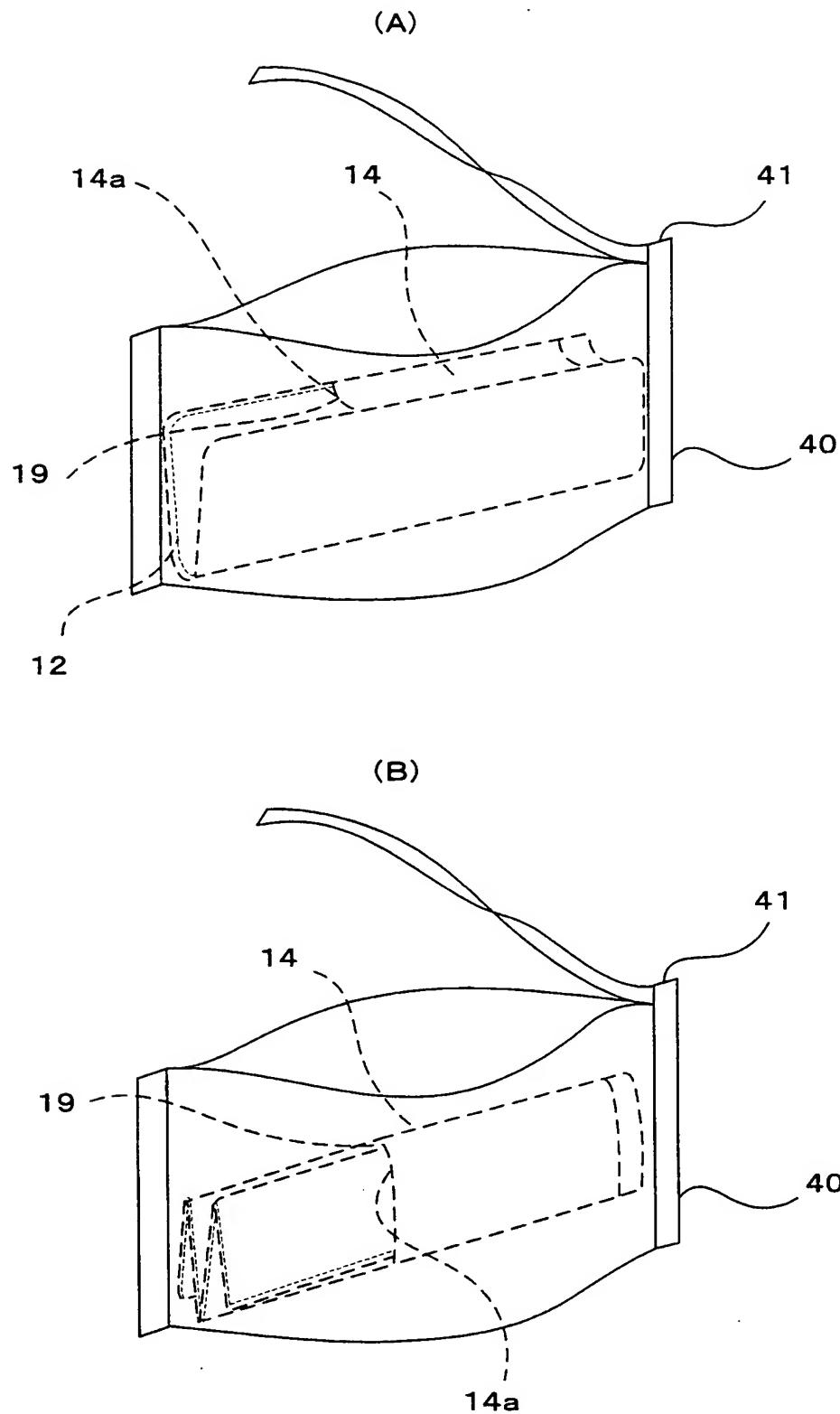
(A)



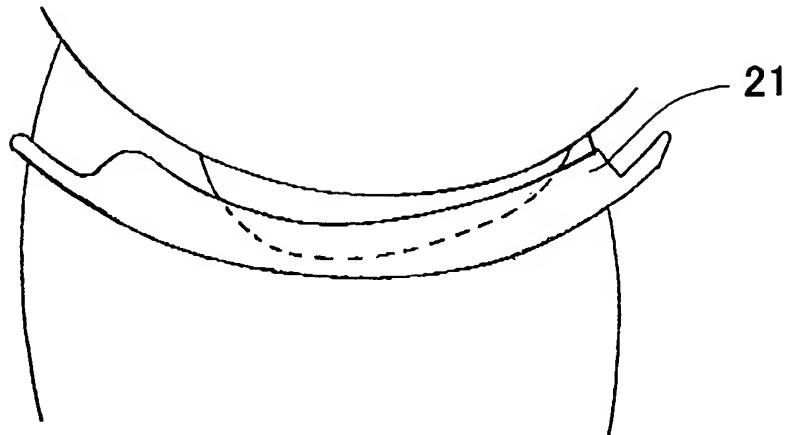
(B)



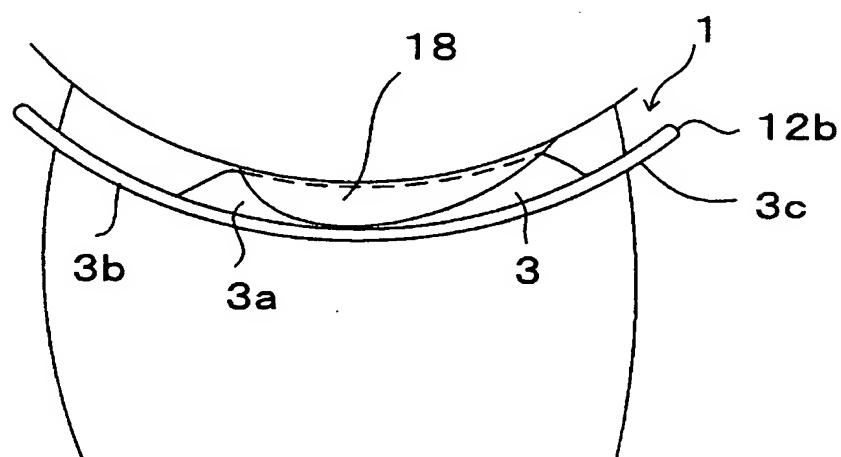
【図19】



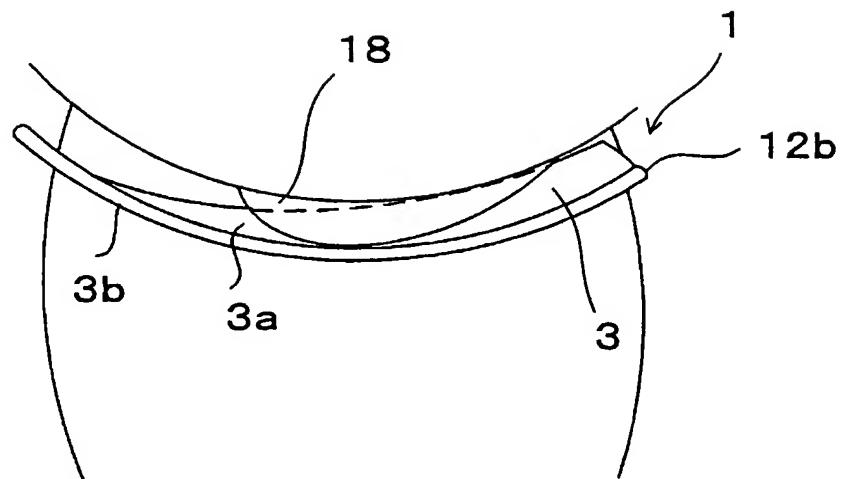
【図20】



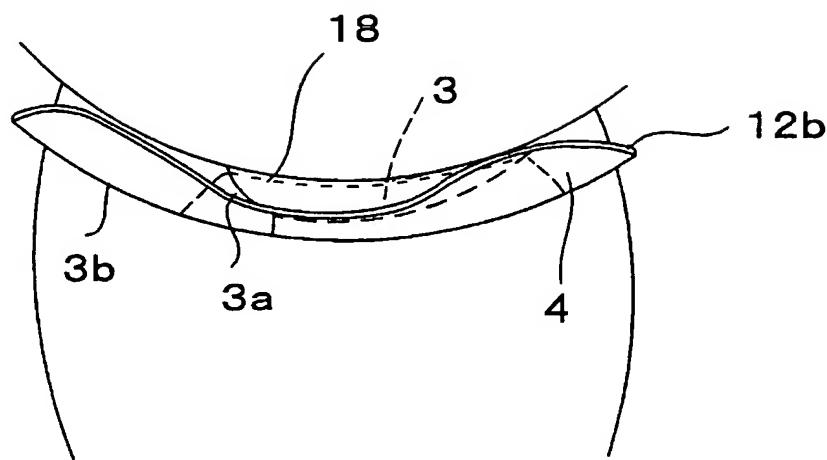
【図21】



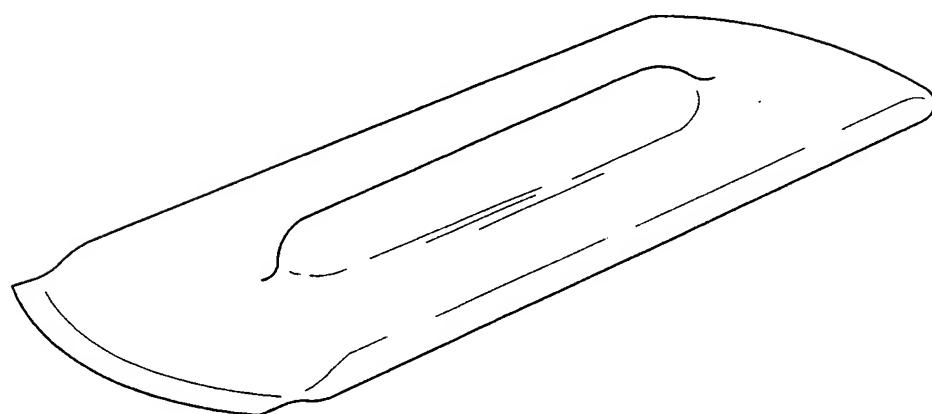
【図22】



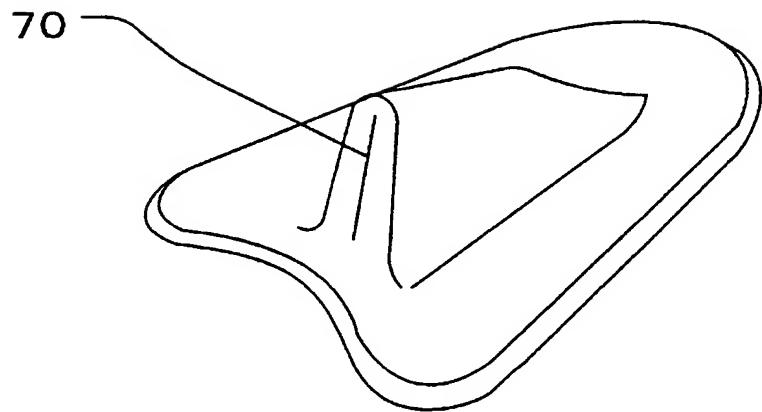
【図23】



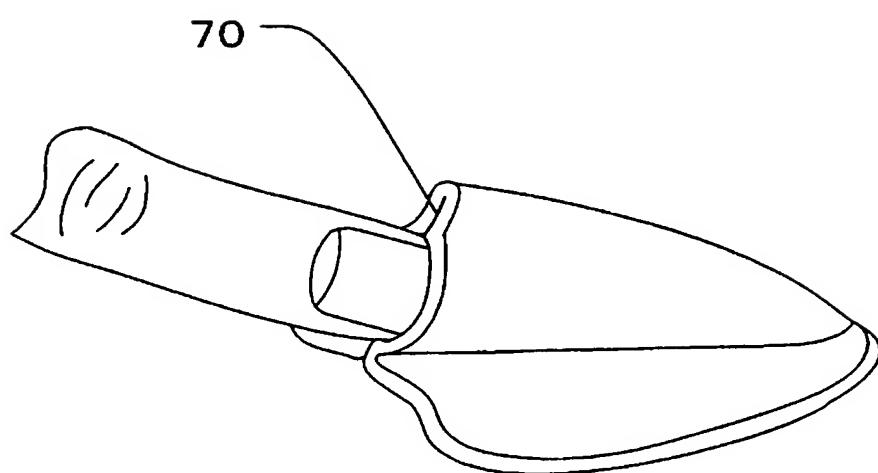
【図24】



【図25】



【図26】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 利用者の身体との密着性が高く、かつ、利用者の陰唇形状の個人差に関係なく使用することができる陰唇間パッドであって、確実かつ衛生的な装着を行うことができる構造の陰唇間パッドを提供する。

【解決手段】 陰唇間パッド1の身体側面に吸収層シート2を折り曲げて形成した長凸状領域3を設けて陰唇間に嵌装させることができるようにするとともに、陰唇間パッド1の反身体側面に吸収層シート2の折り曲げ部分の広がりを規制する既成ミニシート片14を取り付けて既成ミニシート14と裏面側シート12との間に形成される空間に指を差し込むようにする。

【選択図】 図9

特願 2001-195365

出願人履歴情報

識別番号 [000115108]

1. 変更年月日 1990年 8月 24日

[変更理由] 新規登録

住所 愛媛県川之江市金生町下分182番地
氏名 ユニ・チャーム株式会社

2. 変更年月日 2004年 4月 1日

[変更理由] 住所変更

住所 愛媛県四国中央市金生町下分182番地
氏名 ユニ・チャーム株式会社